

令和2年度 地方独立行政法人山梨県立病院機構
業務実績報告書

令和3年6月30日

地方独立行政法人山梨県立病院機構

1 概況

(1) 法人名

地方独立行政法人 山梨県立病院機構

(2) 本部の所在地

甲府市富士見一丁目1-1

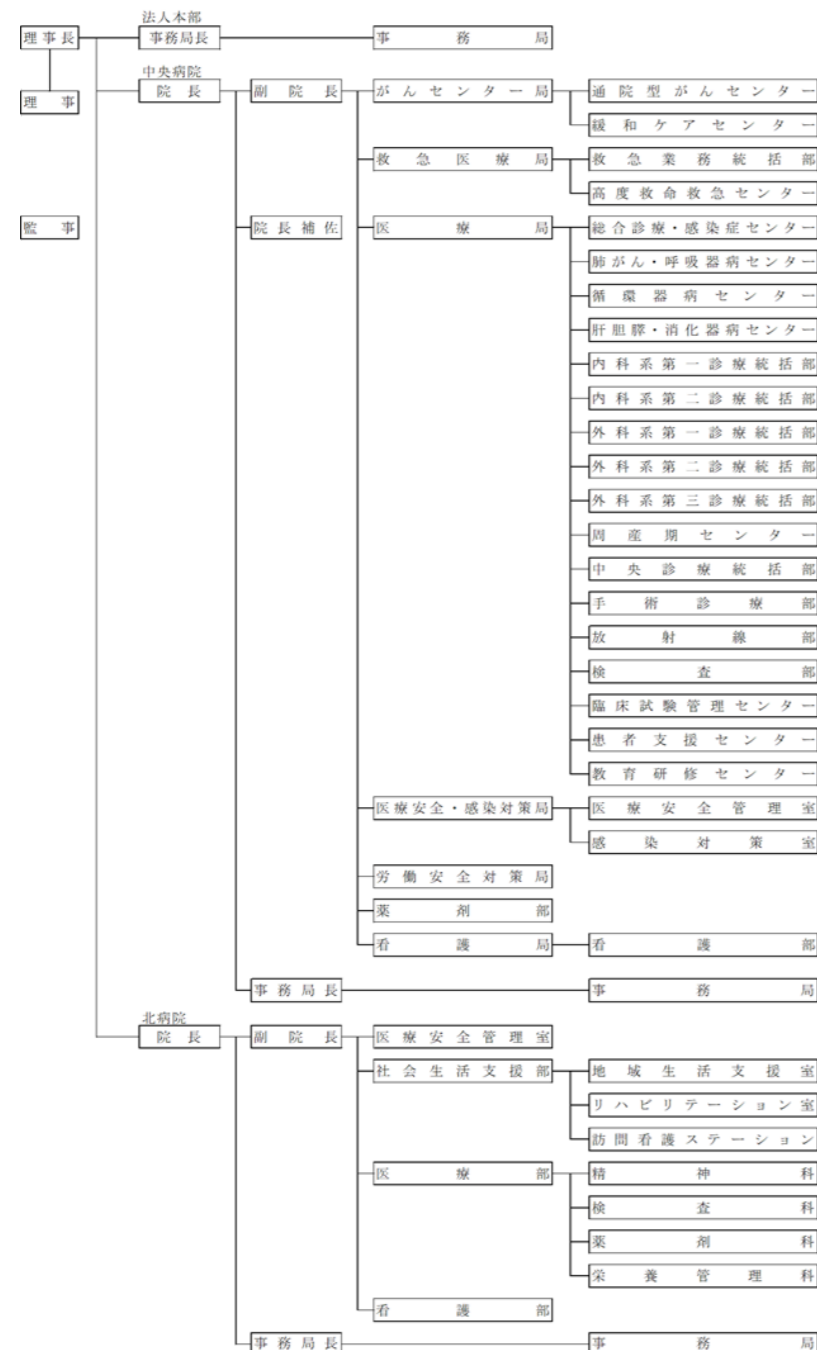
(3) 役員の状況（令和3年3月31日現在）

役員の定数は、地方独立行政法人山梨県立病院機構定款により、理事長1名、理事5名以内、監事2名以内
理事長 小俣政男 理事（3名）平賀幸弘、宮田量治、内藤正浩 監事（2名）柴山 聡、山本薫

(4) 職員の状況（令和3年5月1日現在）

現員数 計 1,657名（医師235名、医療技術228名、看護911名、事務職員140名、技能労務職員143名）

(5) 組織（令和3年3月31日現在）



2 山梨県立病院機構の基本的な目標等

(1) 基本理念

県立中央病院は、山梨県における基幹病院として、地域の需要に基づき医学・医術の進歩に即応した適正な医療を供給することを本旨としている。そして他の医療機関とも緊密に連携しながら、一般医療のほか救命救急医療をはじめ公的医療機関でなければ対応困難な高度・特殊・先駆的医療を担当し、地域医療を補完する役目を果たすとともに、県内各種医療従事者の教育・研修の拠点として本県医療水準の向上に寄与し、県民の健康回復・保持・増進を図り、信頼される質の高い医療を提供し、誰もがいきいきと暮らせる地域社会づくりに貢献することを基本理念とする。

県立北病院は、山梨県の精神科基幹病院として、救急・急性期から早期・長期のリハビリテーション、そしてアウトリーチまで、治療の継続性に重きを置いて、質の高い精神医療の供給をすることを本旨としている。そして特に公的精神医療機関でなくては対応が困難な高度で先駆的な精神医療分野に重点的に取り組み、地域や民間医療機関とも緊密に協力しながら、県の精神医療体制の充実に寄与することを基本方針とする。

(2) 運営方針

・県立中央病院

- 安全・安心な患者さま中心の医療を提供する。
- 専門的知識の習得と技術の向上に努め、質の高い医療を提供する。
- 山梨県の基幹病院として地域医療機関と連携し、医療水準向上に努める。
- 業務の改善や効率化を図り、健全な病院経営に努める。

・県立北病院

- 最良の精神科治療とリハビリテーションレベルを達成する。
- 病院を利用される方々の視点を大切にしてサービスを提供する。
- 山梨県の精神科基幹病院としての役割の中で、最善を尽くす。

3 業務全体の取り組み状況

○政策医療の提供

・県立中央病院

県内唯一の新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、診療制限は行わずに地域保健行政に最大限協力するとともに、がん医療をはじめとした県民生活に欠くことのできない通常医療の提供に向けて、一層の高度化、専門化に取り組んだ。

①救命救急医療

救命救急センターでは、各消防本部からの要請により、24時間体制で三次救急患者を受け入れるとともに、二次救急患者など必ずしも救命救急センターの対応症例でない患者についても受け入れた。また、ドクターヘリ、ドクターカーによる救命救急活動を実施し、増加する救急患者への対応、三次救急以外の患者を診察する治療スペースを確保するため、令和2年3月に二次救急処置室の再整備を行い、4月から運用を開始した。

②総合周産期母子医療

山梨大学医学部附属病院などと役割分担し、県内全てのハイリスクの妊婦等を対象に受け入れ、専門的な医療を提供した。また、胎児超音波スクリーニング検査などにより、胎児の疾患の早期発見に努めるとともに、分娩までの継続的なサポートを実施した。

③がん医療

東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として、がんゲノム遺伝子パネル検査を実施した。また、通院加療がんセンターの待ち時間短縮のため、ベッド数を6床増床し38床にするとともに、患者サービス向上のためリクライニングチェアを11脚導入した。

④循環器病医療

循環器内科と心臓血管外科が密接な連携をとり、急性期治療から亜急性期治療を中心に、24時間体制で治療を行った。ステントグラフト内挿術のうち腸骨動脈分岐デバイスの令和2年度の症例数は国内最多であった。また、経静脈電極拔去など、新しい治療法についても積極的に取り入れている。

⑤難病（特定疾患）医療

難病医療拠点病院として、山梨大学医学部附属病院と役割分担を行う中で、神経難病を除く特定疾患医療の患者を受け入れ、適切な医療を提供した。

⑥エイズ医療

エイズ治療中核拠点病院として、県内の拠点病院を支援するとともに、医師、看護師による治療、薬剤師による服薬指導、臨床心理士によるカウンセリングなど、多職種による専門的な医療を提供した。また、臨床心理士を含むHIV部会やエイズ研修会を開催した。

⑦感染症医療

第1種感染症指定医療機関として、また新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、重症患者を積極的に受入れた。

・県立北病院

平成27年2月から、県の精神科救急医療体制の24時間化に対応し、早急に医療の必要性のある患者の受診相談に応じる精神科救急受診相談センターの業務の一部を担うとともに、センターで救急医療が必要と判断された患者を常時対応型病院として受け入れている。

①精神科救急・急性期医療

スーパー救急病棟2病棟への入院患者数は年々増加しており、短期・集中的な治療を実施した。また、毎週、医師、看護師、ケースワーカー、デイケアに携わるコメディカルスタッフによるケース会議を開催し、患者の治療方針、退院促進、退院後のリハビリテーション等について、症例検討する中で総合的で一貫した医療を提供した。

②児童思春期精神科医療

県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童・思春期病棟を持つ病院として、看護師配置を10:1とし、専従のコメディカルを配置するなど、手厚い医療を提供した。また、増加傾向にある児童・思春期患者に対応するため、児童思春期の初診時の診断及び治療を標準化し、児童思春期専門医による指導体制を確立することで、より高度で専門的な診療を実施するとともに、平成30年12月から、児童思春期病棟を20床から23床に増床した。

③心神喪失者等医療観察法に基づく医療

入院患者に対しては、多職種治療チーム(MDT)による充実した医療を提供し、対象者の社会復帰を促進した。また、退院後の通院対象者に対しても、引き続きMDTによる治療体制を継続するとともに、デイケアや訪問看護も実施し、最適な医療を提供した。

④重度・慢性入院患者への医療

退院が困難な重度・慢性入院患者に対し、症例に応じてクロザピンやm-ECTなどを行うとともに、MDTによる治療体制を構築し、治療に当たった。

⑤重症通院患者への医療

退院後、地域で生活する重症通院患者の多様かつ増大する医療ニーズに対して継続的に支援を行うため、平成31年4月から訪問看護ステーションのサービスを開始した。

⑥依存症患者への医療

「アルコール健康障害に係る専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関(アルコール健康障害)」として、アルコール依存症への治療プログラムを継続するとともに、令和2年7月より「ゲーム障害プログラム」を導入するなど、依存対象に応じた医療提供体制の強化を図った。

⑦認知症患者への医療

認知症疾患医療センターとして、認知症疾患に関する診断と処遇について、臨床心理士等による専門医療相談窓口を設け、患者本人、家族、関係者からの電話または面談相談を行った。

○質の高い医療の提供

①医療の標準化と最適な医療の提供

中央病院では、一般社団法人日本病院会の臨床指標プロジェクトに参加し、北病院では、公益社団法人全国自治体病院協議会の医療の質の評価・公表等推進事業に参加した。

DPCから得られる情報を元に、当院と他のDPC参加病院の診療内容を比較し、各種医療資源(処置、検査、投薬、手術等)の投下状況を分析した。また、クリニカルパスの専門部署を設置するとともに、専従職員2名を配置し、このDPCの分析データを活用してクリニカルパスの新設や見直しを随時行った。

②質の高い看護の提供

病院機能を強化するため、災害対策、情報管理、クリニカルパスに係る専従看護師を配置した。

2名の看護師が感染管理・皮膚排泄分野の特定行為研修を修了した。また、7名が認定看護師の資格を取得するとともに、3名が教育課程を受講した。

③病院施設の修繕、医療機器等の整備

新型コロナウイルス感染症患者受入のため、一般病棟を陰圧室に改修するとともに、感染症患者用エリア内でシャワー浴が行えるよう、機械浴室をシャワールームに改築し、専用の洗濯機、乾燥機を設置した。

ポータブルエックス線装置や超音波画像診断装置、治療のための人口呼吸器や体外式模型人工肺(ECMO)など新型コロナウイルス関連器械備品を約1億5,000万円購入した。

○県民に信頼される医療の提供

①医療安全・感染症対策の推進

院内全体で”誤投薬ゼロ“、“転倒転落ゼロ“に向けて取り組み、各部署で発生したインシデントレベル2以上の誤投薬及びインシデントレベル1以上の転倒転落の推移を毎月グラフ化し、病院会議や看護実践委員会等を通じて共有した。

新型コロナウイルスに係る院内感染防止のため、職員全員が毎日体温測定を行い、発熱状況を見える化した体温モニタリングを実施するとともに、来院者すべての体温測定を徹底し、発熱者はコロナストップ・発熱外来にてコロナ感染症の有無をチェックする体制を構築した。

令和2年4月に新規採用職員130名及び異動職員に対し、PCR検査を実施し全員の陰性を確認するとともに、全職員を対象に新型コロナウイルスの抗体検査を5月と12月に実施し、院内感染がないことを確認した。

当院職員5名の感染が確認された際に、職員、職員家族、患者、外部業者に対して、PCR検査605件、抗原定量248件、フィルムアレイ35件を実施し、全員の陰性を確認した。

入院予定患者の入院前PCR検査を6,339件実施し、緊急入院の患者については、PCR検査の結果が判明するまでは必ず個室に入院させた。また、外来手術処置患者の手術前PCR検査を1,615件実施するとともに、付き添い家族へのPCR検査を155件実施した。

②医療倫理の確立

倫理委員会で、院内で行われる医療行為及び医学の研究に関し、倫理的、社会的観点から審査を行った。

③患者・家族との信頼・協力関係の構築

患者さんやその家族が医療及び福祉に関する相談を安心して行うことができ、その相談に対する適切なサポートを行うため、患者相談窓口を1階ロビーに開設している。

新型コロナウイルスの影響のため原則面会禁止としたが、患者・家族の不安軽減のためオンライン面会を導入したところ、35回(71名)の利用があった。

④医薬品の安心、安全な提供

全17病棟に薬剤師を配置し、病棟薬剤業務の拡充を図るとともに、患者とのコミュニケーションを図りながら、患者が納得して服薬できるように服薬指導を行った。

平成29年7月に中央病院で発生した薬剤紛失事案について、県に提出した改善計画を継続して実行するとともに、薬剤部の出入口を原則常時施錠するなど、薬剤管理の一層の強化と再発防止に取り組んだ。

基本型接種施設として、医療従事者等向け新型コロナウイルスワクチンの管理・分配を行った。

⑤患者サービスの向上

1階外来トイレの改修工事を行い、各和式便器を洋式便器へ交換した。また、2階女子トイレにオムツ替えシートを設置した。

来院者がスムーズに駐車できるよう駐車場を2カ所(68台分)増設し、令和2年4月から供給開始した。

⑥診療情報の適切な管理

紙カルテは、電気錠により入室が制限されているカルテ庫において適切に保管した。退院時要約の記載率を毎月9割以上達成するよう管理を徹底した。

電子カルテは、令和2年12月の更新を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、令和3年5月に更新を完了した。

○医療に関する調査及び研究

①新薬開発等への貢献

中央病院では、新規4件、継続38件の治験のほか、臨床研究や製造販売後調査を、北病院では、精神科分野の臨床研究や製造販売後調査を実施した。

②各種調査研究の推進

看護の質の向上を目指して、県立大学と5つのテーマで共同研究を行った。

「全ゲノム解析によるブラジル変異株の市中における国内初の報告」他12本の新型コロナウイルスに係る論文を投稿した。

○医療に関する技術者の育成・確保及び定着

・医療従事者の研修の充実

研修会、学会参加旅費、負担金、認定看護師受講料、研修医指導用図書購入費等の職員研究研修に係る必要額を予算計上し、資格取得を支援するとともに、資格を取得しやすい環境を整えた。

看護師用e-learningシステムを活用するためのタブレット端末を全病棟に導入した。

・職場環境の整備

①働きやすい職場環境の整備

「会計年度任用職員」制度を導入し、令和2年4月1日付で、臨時職員及び非常勤嘱託職員等216名が会計年度任用職員に移行した。

職員の健康管理、労働環境の改善、働きやすい職場づくりを更に推進するため、各部署に健康管理担当者を設置した。

休暇取得促進のため、半日単位での年休取得制度を設ける旨の規程改正を行うとともに、新たな特別休暇として「学校行事参加休暇」及び「不妊治療休暇」を設けた。

②医療従事者の業務負担の軽減

医師事務作業補助者を19名採用し、20対1医師事務作業補助体制加算を取得した。また、看護夜間配置を16対1から12対1に引き上げた。

○医療に関する地域への支援

①地域医療機関との協力体制の強化

紹介率は、77.2%、逆紹介率は74.9%と高い水準にある。また、地域の開業医と当院整形外科常勤医との整形外科相談ホットラインを開設した。

新型コロナウイルス関連として、PCR検査に加え、21種類のウイルス・細菌を50分で検出できる機器を稼働させ、高感度で迅速な検査体制を構築し、24時間体制の発熱外来を介して、かかりつけ医を後方支援した。また、甲府市医師会検査技師のPCR検査研修を行った。

②地域の医師不足の解消に対する支援

令和3年度の初期臨床研修のマッチ率は100%であり、18名を内定した。

北病院では、塩川病院から精神科医師の派遣依頼を受け、医師派遣協定を締結し、毎週1日医師の派遣を実施した。

③県内の医療水準の向上

地域医療を担う連携登録医(かかりつけ医)等の資質向上を図るため、地域連携研修会をオンラインで7回開催した。また、看護師、薬剤師等の実習生を受け入れた。

④地域社会への協力

救急救命士の育成のため、就業前実習、再教育実習、薬剤投与実習等を実施するとともに、県立大学等の看護師養成機関の授業や研修等に職員を講師として派遣した。また、捜査機関等からの照会、調査に協力した。

○災害時における医療救護

①医療救護活動の拠点機能

災害対策担当看護師として、専任看護師を配置した。また、水防法に基づく洪水時の避難確保計画を策定し、計画に基づく机上水害訓練を実施した。

新型コロナウイルス医療対策本部における入院調整班として、DMAT隊員を延べ207回派遣するとともに、クラスターが発生した病院に5日間、延べ29名のDMAT隊員を派遣した。

②他県等の医療救護への協力

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療体制が逼迫した沖縄県に看護師2名を派遣した。

○医療環境の変化に対応できる運営体制の構築

中央病院では「病院会議」、北病院では「院内連絡会議」を通じ、院内の重要事項、課題等について病院全体で情報の共有化を図った。また、中央病院の「病院会議」において各部署の優れた取り組みを発表させ、業務改善の重要性について病院全体への意識付けを図った。

○経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減

①診療報酬請求の事務の強化

診療報酬の迅速かつ適正な算定を行うため、柔軟な人員配置などにより、診療報酬請求体制の強化を図った。また、診療報酬適正化に向けDPC担当は、病棟クラーク業務及び医師等に対して、診療報酬制度の周知・啓発に努めた。

②使用料及び手数料の確保

捜査関係事項照会への回答に医師の診断、意見を要するものは、文書料として1件2,200円を請求することとした。また、予防接種ワクチンの接種料の見直しを行った。

③未収金対策

発生予防策として、会計窓ロクレジットカード対応、即日請求、2次救急預り金制度、連帯保証人代行制度の導入、限度額適用認定の入院前申請、また発生後の対策として、コンビニ納付、回収業務の弁護士委託、定期請求間隔の短縮等に取り組んだ。これにより、当年・過年度に発生した未収金は、0.6億円減少した。

④診療情報の活用

クリニカルパスの分析の専門部署である病院機能管理担当を設置した。また、令和2年度をパス改革元年とし、クリニカルパス大会を開催し、多職種が参加した。

⑤薬品費及び診療材料費の節減・適正化

中央病院において、共同購入組織である日本ホスピタルアライアンスに平成28年4月から加盟し、令和2年度は13分野の共同購入に参加し、約1億1,200万円の経費削減ができた。

診療材料の新規継続採用基準を新たに設け、ベンチマークが他院平均よりも安価、若しくは償還価格（ないものは定価）の12%以上の値引率とした。

薬事委員会の内部委員会として、既存薬適正価格購入委員会を設け、医師、薬剤師、事務の多職種で価格交渉を行った。

⑥経費等の節減・適正化

医師の負担軽減のため、スキャンセンター担当職員5名をDC担当に配置替えした。また、委託料に係る他院比較を行うとともに、機械備品に係るベンチマークを導入した。

○事務部門の専門性の向上

プロパーの事務職員5名を採用した。

令和2年度から、クリニカルパスの分析の専門部署である病院機能管理担当を設置した。

○職員の経営参画意識の向上

①経営関係情報の周知

中央病院の「病院会議」、北病院の「院内連絡会議」において、病院全体の情報交換や意見交換、共通認識の醸成を行い、各科の入院、外来の稼働額を前年同期と比較図示化し、前年同月に比べ稼働額が減った診療科については、その要因を探り、対策を立てることにより、職員の経営参画意識を高めた。

②取組の共有化

「病院会議」、「院内連絡会議」において、中期計画等について説明し、共通認識を持って、日々の業務に取り組んだ。

「病院機能評価」の結果明らかとなった課題等について、各部署が改善に取り組み、医療機能推進委員会で報告を行った。

③職員提案の奨励

職員が病院経営について自由に提案するプロジェクト“KAIZEN”とプロジェクト“坂の上の雲”の2部門及び“働き方改革”について募集を行い、令和2年度は26件の提案があった。

○その他業務運営に関する重要事項

①保健医療行政への協力

中央病院では、がん診療連携拠点病院、三次救急医療を担う高度救命救急センター、県内の周産期医療の中核をなす総合周産期母子医療センター、難病医療拠点病院、新型コロナウイルス感染症重点拠点病院等として、北病院では、精神科救急医療体制の24時間化における精神科救急受診相談センター業務の一部を担うとともに常時対応型病院として、また認知症対策における認知症疾患医療センター等として、県の保健医療に係る重要施策に貢献した。

また、県が推進する後発医薬品について積極的に切り替えを行い、規格単位数量割合は中央病院で97.5%、北病院で89.3%となった。

②法令・社会規範の遵守

倫理委員会を開催し、院内で行われる医療行為及び医学の研究に関し、倫理的、社会的観点から審査を行った。

「被虐待を疑う患者（児）を診察・目撃した場合」のフローを改正した。また、被虐待を疑う患者が18歳以上の場合に対応するため、多職種によるDV等虐待対応チームを設置した。

③積極的な情報公開

病院機構、中央病院、北病院がそれぞれホームページを開設しており、年度計画や決算状況、理事会の議事録等を公表するとともに、法人組織や診療案内、研修内容、採用情報等に加え、新型コロナウイルスに係る情報など、県民が知りたい情報を随時提供した。

4 特色ある取り組みや様々な工夫

(1) 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

○救命救急医療

救命救急センターでは、各消防本部からの要請により、24時間体制で三次救急患者を受け入れるとともに、二次救急患者など必ずしも救命救急センターの対応症例でない患者についても受け入れた。また、ドクターヘリ、ドクターカーによる救命救急活動を実施し、増加する救急患者への対応、三次救急以外の患者を診察する治療スペースを確保するため、令和2年3月に二次救急処置室の再整備を行い、4月から運用を開始した。

○総合周産期母子医療

山梨大学医学部附属病院などと役割分担し、県内全てのハイリスクの妊婦等を対象に受け入れ、専門的な医療を提供した。また、胎児超音波スクリーニング検査などにより、胎児の疾患の早期発見に努めるとともに、分娩までの継続的なサポートを実施した。

○がん医療

東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として、がんゲノム遺伝子パネル検査を実施した。また、遺伝性乳がん卵巣がん症候群の診断を行う基幹施設指定され、この領域で、将来のがん発生リスクの高い患者のがん関連遺伝学的検査を実施した。

○感染症医療及び医療安全・感染症対策の推進

第1種感染症指定医療機関として、また新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、重症患者を積極的に受入れた。院内全体で”誤投薬ゼロ”、”転倒転落ゼロ”に向けて取り組み、各部署で発生したインシデントレベル2以上の誤投薬及びインシデントレベル1以上の転倒転落の推移を毎月グラフ化し、病院会議や看護実践委員会等を通じて共有した。

新型コロナウイルスに係る院内感染防止のため、職員全員が毎日体温測定を行い、発熱状況を見える化した体温モニタリングを実施するとともに、来院者すべての体温測定を徹底し、発熱者はコロナストップ・発熱外来にてコロナ感染症の有無をチェックする体制を構築した。

令和2年4月に新規採用職員130名及び異動職員に対し、PCR検査を実施し全員の陰性を確認するとともに、全職員を対象に新型コロナウイルスの抗体検査を5月と12月に実施し、院内感染がないことを確認した。

当院職員5名の感染が確認された際に、職員、職員家族、患者、外部業者に対して、PCR検査605件、抗原定量248件、フィルムアレイ35件を実施し、全員の陰性を確認した。

○精神科救急・急性期医療

スーパー救急病棟2病棟への患者数は年々増加しており、短期・集中的な治療を実施した。毎週、医師、看護師、ケースワーカー、デイケアに携わるコメディカルスタッフによるケース会議を開催し、患者の治療方針、退院促進、退院後のリハビリテーション等について、症例検討する中で総合的で一貫した医療を提供した。

○児童思春期精神科医療

県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童・思春期病棟を持つ病院として、看護師配置を10:1とし、専従のコメディカルを配置するなど、手厚い医療を提供した。また、増加傾向にある児童・思春期患者に対応するため、児童思春期の初診時の診断及び治療を標準化し、児童思春期専門医による指導体制を確立することで、より高度で専門的な診療を実施するとともに、平成30年12月から、児童思春期病床を20床から23床に増床した。

○医療の標準化と最適な医療の提供

DPCから得られる情報を元に、当院と他のDPC参加病院の診療内容を比較し、各種医療資源(処置、検査、投薬、手術等)の投下状況を分析した。また、クリニカルパスの専門部署を設置するとともに、専従職員2名を配置し、このDPCの分析データを活用してクリニカルパスの新設や見直しを随時行った。

○質の高い看護の提供

病院機能を強化するため、災害対策、情報管理、クリニカルパスに係る専従看護師を配置した。

2名の看護師が感染管理・皮膚排せ分野の特定行為研修を修了した。また、7名が認定看護師の資格を取得するとともに、3名が教育課程を受講した。

○医療に関する調査及び研究

中央病院では、新規4件、継続38件の治験のほか、臨床研究や製造販売後調査を、北病院では、精神科分野の臨床研究や製造販売後調査を実施した。

「全ゲノム解析によるブラジル変異株の市中における国内初の報告」他12本の新型コロナウイルスに係る論文を投稿した。

○職場環境の整備

職員の健康管理、労働環境の改善、働きやすい職場づくりを更に推進するため、各部署に健康管理担当者を設置した。また、休暇取得促進のため、半日単位での年休取得制度を設ける旨の規程改正を行うとともに、新たな特別休暇として「学校行事参加休暇」及び「不妊治療休暇」を設けた。

医師事務作業補助者を19名採用し、20対1医師事務作業補助体制加算を取得した。また、看護夜間配置を16対1から12対1に引き上げた。

○地域医療機関との協力体制の強化

紹介率は、77.2%、逆紹介率は74.9%と高い水準にある。

新型コロナウイルス関連として、PCR検査に加え、21種類のウイルス・細菌を50分で検出できる機器を稼働させ、高感度で迅速な検査体制を構築し、24時間体制の発熱外来を介して、かかりつけ医を後方支援した。

○災害時における医療救護

災害対策担当看護師として、専任看護師を配置した。また、水防法に基づく洪水時の避難確保計画を策定し、計画に基づく机上水害訓練を実施した。

新型コロナウイルス医療対策本部における入院調整班として、DMAT隊員を延べ207回派遣するとともに、クラスターが発生した病院に5日間、延べ29名のDMAT隊員を派遣した。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療体制が逼迫した沖縄県に看護師2名を派遣した。

(2) 業務運営の改善及び効率化並びに財務状況に関する事項

○経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減

クリニカルパスの分析の専門部署である病院機能管理担当を設置した。また、令和2年度をパス改革元年とし、クリニカルパス大会を開催し、多職種が参加した。

日本ホスピタルアライアンスの共同購入に参加し、約1億1,200万円の経費削減ができた。

診療材料の新規継続採用基準を新たに設け、ベンチマークが他院平均よりも安価、若しくは償還価格(ないものは定価)の12%以上の値引率とした。また、薬事委員会の内部委員会として、既存薬適正価格購入委員会を設け、医師、薬剤師、事務の多職種で価格交渉を行った。

委託料に係る他院比較を行うとともに、機械備品に係るベンチマークを導入した。

(3) その他業務運営に関する事項

○保健医療行政への協力

中央病院では、がん診療連携拠点病院、三次救急医療を担う高度救命救急センター、県内の周産期医療の中核をなす総合周産期母子医療センター、難病医療拠点病院、新型コロナウイルス感染症重点拠点病院等として、北病院では、精神科救急医療体制の24時間化における精神科救急受診相談センター業務の一部を担うとともに常時対応型病院として、また認知症対策における認知症疾患医療センター等として、県の保健医療に係る重要施策に貢献した。

特に令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に関連して、医療従事者等向け新型コロナウイルスワクチンの管理・分配やクラスター発生施設への感染管理の専門医・看護師を派遣、感染症宿泊療養施設での医師のオンコール対応など、県からの様々な要請に協力した。

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 医療の提供
 (1) 政策医療の提供

1 医療の提供
 政策医療を確実に県民に提供するとともに、医療の質の向上に努め、県民に信頼される医療を提供すること。
 (1) 政策医療の提供
 救命救急医療、総合周産期母子医療、精神科救急・急性期医療、児童思春期精神科医療など、他の医療機関では対応が困難であるが県民生活に欠かすことのできない政策医療を提供し、本県の基幹病院としての役割を果たすこと。
 また、がん、難病、エイズ、感染症といった県の拠点病院に指定されている疾病について重点的に取り組み、本県の医療水準の向上に先導的な役割を果たすこと。特にがん医療については、ゲノム医療を推進することとし、国の取組を踏まえつつ、適切な医療提供体制を整備すること。
 さらに、心神喪失者等医療観察法に基づく指定医療機関としての医療を提供するとともに、精神科の重度・慢性入院患者、重症通院患者、依存症患者の社会復帰を目指すこと。併せて、年々増加する認知症疾患の患者が地域で安心して暮らし続けられるよう専門医療を提供すること。
 なお、政策医療の提供に当たっては、引き続き県内の医療機関、関係行政機関等と適切な連携及び協力を行うこと。

中期計画	年度計画
<p>第2 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療の提供 山梨県の基幹病院として県民の健康の保持及び増進に寄与するため、政策医療を的確に提供するとともに、高度・専門・先進的で、県民に信頼される質の高い医療を提供する。</p> <p>(1) 政策医療の提供 ① 県立中央病院 救命救急医療、総合周産期母子医療、がん医療をはじめとした県民生活に欠くことのできない医療の提供に向けて、一層の高度化、専門化を図る。また、脳卒中、心臓病その他の循環器病に対する医療の充実を図る。</p> <p>ア 救命救急医療 山梨県の三次救急医療を担う高度救命救急センターを中心とした救命救急医療の提供やドクターヘリ及びドクターカーの活用による、早期の救命救急医療の提供により、現在の高い救命率を維持するとともに、施設、人員、医療機器等の体制の充実により、更なる救命率の向上に努める。 また、精神疾患を有する救急患者に対し、関係機関と連携して適切な医療を提供する。 さらに、初期救急医療及び二次救急医療体制については、他の医療機関、医師会などの関係機関及び自治体と連携する中で、救急医療体制の確保に協力する。</p>	<p>第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療の提供 (1) 政策医療の提供 ① 県立中央病院 救命救急医療、総合周産期母子医療、がん医療をはじめとした県民生活に欠くことのできない医療の提供に向けて、一層の高度化、専門化を図る。また、脳卒中、心臓病その他の循環器病に対する医療の充実を図る。</p> <p>ア 救命救急医療 ・ 三次救急医療を担う高度救命救急センターと各診療科が連携を図り、迅速で効率的な治療を行う。 ・ ドクターヘリ及びドクターカーの活用による、早期の救命救急医療を提供する。 ・ 高度救命救急センターにおいて、最適な環境で緊急手術等が可能となる施設整備や最新の放射線機器が導入できる十分なスペースを確保するため、中央病院1階東側に新たな施設の建設に向け準備を進める。 ・ 令和元年11月に中央病院に開設した精神・身体合併症病棟において、関係機関と連携して適切な医療を提供する。 ・ 初期救急医療及び二次救急医療体制については、他の医療機関、医師会などの関係機関及び自治体と連携する中で、救急医療体制の確保に協力する。 ・ 三次救急医療を担う高度救命救急センターと同センター隣に整備する二次救急処置室の機能を最大限に活用し、さらなる救急医療体制の強化に努める。</p>

業務実績及び法人の自己評価																																																					
<p>(1)救命救急医療</p> <table border="1"> <tr> <th>評価</th> <td>S</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</td> </tr> </table> <p>【実績(定量的な業績指標)】</p> <p>令和2年における病院外心肺停止症例における社会復帰症例数については、平均年齢が過去最も高いにも関わらず、19人(6.3%)と過去最高であった。</p> <table border="1"> <caption>病院外心肺停止症例における生存退院・社会復帰症例数</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27年</th> <th>H28年</th> <th>H29年</th> <th>H30年</th> <th>R1年</th> <th>R2年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院外心肺停止(人)</td> <td>302</td> <td>325</td> <td>333</td> <td>322</td> <td>313</td> <td>303</td> </tr> <tr> <td>生存退院(人)</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>28</td> <td>18</td> <td>26</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>社会復帰(人)</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>11</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>生存退院率</td> <td>6.6%</td> <td>6.8%</td> <td>8.4%</td> <td>5.6%</td> <td>8.3%</td> <td>6.9%</td> </tr> <tr> <td>社会復帰率</td> <td>5.6%</td> <td>4.6%</td> <td>4.2%</td> <td>5.0%</td> <td>3.5%</td> <td>6.3%</td> </tr> <tr> <td>平均年齢(歳)</td> <td>74</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table> <p>【実績(その他の取組状況)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の患者に対する救命医療を行うため、平成31年4月に「高度救命救急センター」の指定を受け、より高度で専門的な救急医療を提供できる体制を整備した。 	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている		H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	院外心肺停止(人)	302	325	333	322	313	303	生存退院(人)	20	22	28	18	26	21	社会復帰(人)	17	15	14	16	11	19	生存退院率	6.6%	6.8%	8.4%	5.6%	8.3%	6.9%	社会復帰率	5.6%	4.6%	4.2%	5.0%	3.5%	6.3%	平均年齢(歳)	74	73	74	74	74	75	
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																			
	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年																																															
院外心肺停止(人)	302	325	333	322	313	303																																															
生存退院(人)	20	22	28	18	26	21																																															
社会復帰(人)	17	15	14	16	11	19																																															
生存退院率	6.6%	6.8%	8.4%	5.6%	8.3%	6.9%																																															
社会復帰率	5.6%	4.6%	4.2%	5.0%	3.5%	6.3%																																															
平均年齢(歳)	74	73	74	74	74	75																																															

中期計画

年度計画

業務実績及び法人の自己評価

- 高度救命救急センターでは、各消防本部からの要請により、24時間体制で、三次救急患者を受け入れた。二次救急患者など必ずしも高度救命救急センターの対応症例でない患者についても受け入れており、セーフティーネットの役割も担っている。
- 救急車搬送人数のうち三次救急は、前年度と比べて4.4%増の1,551人、また、一次救急他から三次救急の合計は、3.0%減の5,487人となった。

救急車で搬送された人数 (単位:人)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
一次救他	2,669	2,798	2,788	2,741	2,400	2,342	(2.4%減)
二次救	1,870	1,829	1,832	1,960	1,773	1,594	(10.1%減)
三次救	1,309	1,473	1,516	1,462	1,485	1,551	(4.4%増)
計	5,848	6,100	6,136	6,163	5,658	5,487	(3.0%減)

※ 一次救他は、一次救急、二次救急当番日以外に搬送された二次救急患者及び二次救急当番日に甲府・中巨摩地区以外から搬送された二次救急患者

高度救命救急センターにおける重篤患者の内訳 (単位:人)

	H30	R1	R2	
病院外心肺停止	341	339	333	(1.8%減)
重症外傷(MaxALS3)	357	325	280	(13.9%減)
重症外傷(緊急手術)	150	152	145	(4.6%減)
重症脳血管障害	127	99	126	(27.3%増)
重症大動脈疾患	47	50	51	(2.0%増)
その他の重症病態	66	47	37	(21.3%減)
重症急性冠症候群	60	45	62	(37.8%増)
重症急性心不全	32	40	32	(20.0%減)
重症体温異常	30	32	25	(21.9%減)
重症呼吸不全	22	29	24	(17.2%減)
重症急性中毒	16	23	24	(4.3%増)
重症消化管出血	36	23	24	(4.3%増)
重症敗血症	36	22	35	(59.1%増)
重症熱傷	14	14	12	(14.3%減)
重症意識障害	19	14	20	(42.9%増)
指肢切断	6	4	2	(50.0%減)
特殊感染症	4	2	1	(50.0%減)
重篤な急性腎不全	3	2	2	(増減なし)
重篤な肝不全	3	0	0	(増減なし)
重症出血性ショック	6	1	3	(200.0%増)
合計	1,375	1,263	1,238	(2.0%減)

- 令和2年度のドクターヘリの現場から医療機関への搬送時間は平均21分、出動件数は前年度と比べて17.7%減の410件(現場出動349件、病院間搬送41件 離陸後キャンセル20件)となった。なお、搬送者には新型コロナウイルス感染症患者(後日、擬陽性と判明)もあり、感染リスクを負いながらも、使命感をもって従事した。
- ドクターカーの出動件数は、前年度と比べて4.2%減の295件となった。

出動件数 (単位:件)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
ドクターヘリ	430	493	539	581	498	410
ドクターカー	460	602	575	579	308	295
計	890	1,095	1,114	1,160	806	705

- ドクターヘリのランデブーポイントは、令和2年度に6件増えて、452件となった。

ドクターヘリランデブーポイント (単位:箇所)

	H28	H29	H30	R1	R2
ポイント数	415	413	444	446	452

(1.3%増)

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																	
		<p>山梨県、神奈川県及び静岡県 دکترヘリの広域連携を継続して実施している。令和2年度の山梨県から他県への連携は4件、他県から山梨県への連携は3件であった。</p> <p>ドクターヘリの3県広域連携の実績(平成26年8月から運航を開始) (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山梨県→他県</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>他県→山梨県</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターヘリについては、消防本部などの関係者で3か月に1度、症例検討会を開催しており、実際の事案をもとに、適切な運用について検討を行っている。令和2年度は3回開催しており、運航開始から通算で34回となった。</p> <p>令和2年度は、高度救命救急センター内へER型ハイブリッド室及びX線血管撮影装置を配置するため、中央病院東側敷地の増築について、基本・実地設計業務の委託契約を締結し、令和3年9月の入札、令和4年8月の完成を予定している。</p> <p>県などの要請を受け、高度救命救急センターの患者のうち、精神科医療が必要な患者に対応するため、精神身体合併症病棟を令和元年11月に開棟した。令和2年度の患者数は、前年度と比べて116.7%増の13名であった。</p> <p>精神・身体合併症病棟患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>6</td> <td>13 (116.7%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>精神科医療が必要な患者に対して、中病と北病の連携を進めており、令和2年度は中病から北病に26名の患者を、北病から中病に8名の患者を転院させた。</p> <p>甲府地区の初期救急における深夜帯診療が中止されたため、平成28年度から二次救急当番日には、初期救急の患者を緊急避難的に受け入れている。さらに、一部の二次救急病院の受入れに支障が出ているため、令和2年度は、これまでに以上に当番日を引き受けた。</p> <p>二次救急当番日数 (単位:日)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土曜当番日数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>14 (皆増)</td> </tr> <tr> <td>休日当番日数</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>29</td> <td>24 (17.2%減)</td> </tr> <tr> <td>夜間当番日数</td> <td>112</td> <td>112</td> <td>107</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>111 (0.9%増)</td> </tr> <tr> <td>二次救急当番数</td> <td>137</td> <td>130</td> <td>129</td> <td>134</td> <td>139</td> <td>149 (7.2%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>二次救急病院別患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>4,803</td> <td>4,401</td> <td>4,158</td> <td>4,361</td> <td>3,902</td> <td>3,416 (12.5%減)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>11,966</td> <td>11,111</td> <td>12,121</td> <td>11,732</td> <td>11,365</td> <td>8,697 (23.5%減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>16,769</td> <td>15,512</td> <td>16,279</td> <td>16,093</td> <td>15,267</td> <td>12,113 (20.7%減)</td> </tr> <tr> <td>中央病院割合</td> <td>28.6%</td> <td>28.4%</td> <td>25.5%</td> <td>27.1%</td> <td>25.6%</td> <td>28.2% (2.6P増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>増加する救急患者への対応、三次救急以外の患者を診察する治療スペースを確保するため、令和2年3月に二次救急処置室の再整備を行い、令和2年4月から運用を開始した。</p>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	山梨県→他県	4	8	5	7	10	4	他県→山梨県	8	3	2	0	1	3		R1	R2	患者数	6	13 (116.7%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2	土曜当番日数	0	0	0	0	0	14 (皆増)	休日当番日数	25	18	22	24	29	24 (17.2%減)	夜間当番日数	112	112	107	110	110	111 (0.9%増)	二次救急当番数	137	130	129	134	139	149 (7.2%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2	中央病院	4,803	4,401	4,158	4,361	3,902	3,416 (12.5%減)	その他	11,966	11,111	12,121	11,732	11,365	8,697 (23.5%減)	合計	16,769	15,512	16,279	16,093	15,267	12,113 (20.7%減)	中央病院割合	28.6%	28.4%	25.5%	27.1%	25.6%	28.2% (2.6P増)
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																													
山梨県→他県	4	8	5	7	10	4																																																																																													
他県→山梨県	8	3	2	0	1	3																																																																																													
	R1	R2																																																																																																	
患者数	6	13 (116.7%増)																																																																																																	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																													
土曜当番日数	0	0	0	0	0	14 (皆増)																																																																																													
休日当番日数	25	18	22	24	29	24 (17.2%減)																																																																																													
夜間当番日数	112	112	107	110	110	111 (0.9%増)																																																																																													
二次救急当番数	137	130	129	134	139	149 (7.2%増)																																																																																													
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																													
中央病院	4,803	4,401	4,158	4,361	3,902	3,416 (12.5%減)																																																																																													
その他	11,966	11,111	12,121	11,732	11,365	8,697 (23.5%減)																																																																																													
合計	16,769	15,512	16,279	16,093	15,267	12,113 (20.7%減)																																																																																													
中央病院割合	28.6%	28.4%	25.5%	27.1%	25.6%	28.2% (2.6P増)																																																																																													
<p>イ 総合周産期母子医療</p> <p>山梨県の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク患者の受入体制を確保し、高度な医療を提供することにより、県全体の新生児死亡率等の低減に寄与する。</p> <p>また、胎児超音波スクリーニング検査などにより疾患が発見された場合には、母体・胎児への継続的な支援を行う。</p>	<p>イ 総合周産期母子医療</p> <p>山梨県の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク患者の受入体制を確保し、高度な医療を提供することにより、県全体の新生児死亡率等の低減に寄与する。また、胎児超音波スクリーニング検査などにより疾患が発見された場合には、母体・胎児への継続的な支援を行う。</p>	<p>(2)総合周産期母子医療</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>S</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績(定量的な業績指標)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>山梨大学医学部附属病院などと役割分担し、県内全てのハイリスクの妊婦等を受け入れ、専門的な医療を提供した。特に産褥以外の母体、新生児救急搬送は、当院で振り分けを行うことにより、地域の分娩取扱機関との連携を図りながら総合的・専門的な医療を提供している。</p> <p>母体、新生児の救急搬送依頼及び受入実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母体</td> <td>108</td> <td>92</td> <td>91</td> <td>107</td> <td>103</td> <td>113 (9.7%増)</td> </tr> <tr> <td>中病受入</td> <td>86</td> <td>73</td> <td>70</td> <td>90</td> <td>87</td> <td>96 (10.3%増)</td> </tr> <tr> <td>他院受入</td> <td>22</td> <td>19</td> <td>21</td> <td>17</td> <td>16</td> <td>17 (6.3%増)</td> </tr> <tr> <td>新生児</td> <td>74</td> <td>91</td> <td>74</td> <td>79</td> <td>56</td> <td>54 (3.6%減)</td> </tr> <tr> <td>中病受入</td> <td>34</td> <td>42</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>22</td> <td>13 (40.9%減)</td> </tr> <tr> <td>他院受入</td> <td>40</td> <td>49</td> <td>47</td> <td>46</td> <td>34</td> <td>41 (20.6%増)</td> </tr> </tbody> </table>	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている	実績(定量的な業績指標)				H27	H28	H29	H30	R1	R2	母体	108	92	91	107	103	113 (9.7%増)	中病受入	86	73	70	90	87	96 (10.3%増)	他院受入	22	19	21	17	16	17 (6.3%増)	新生児	74	91	74	79	56	54 (3.6%減)	中病受入	34	42	27	33	22	13 (40.9%減)	他院受入	40	49	47	46	34	41 (20.6%増)																																										
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																																																																	
実績(定量的な業績指標)																																																																																																			
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																													
母体	108	92	91	107	103	113 (9.7%増)																																																																																													
中病受入	86	73	70	90	87	96 (10.3%増)																																																																																													
他院受入	22	19	21	17	16	17 (6.3%増)																																																																																													
新生児	74	91	74	79	56	54 (3.6%減)																																																																																													
中病受入	34	42	27	33	22	13 (40.9%減)																																																																																													
他院受入	40	49	47	46	34	41 (20.6%増)																																																																																													

新生児(1,500g以下)の受入状況 (単位:件)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
新生児(1,500g以下)	(91.7%)	(90.5%)	(95.0%)	(93.0%)	(94.1%)	(92.6%)	(1.5P減)
中病入院件数	44	38	38	40	48	50	(4.2%増)
県内全体	48	42	40	43	51	54	(5.9%増)

母体救急搬送の当院受入症例の疾患件数 (単位:件)

	H29	H30	R1	R2
前期破水	8	13	15	26
切迫早産	27	25	34	29
妊娠高血圧症候群	4	13	10	11
常位胎盤早期剥奪	7	8	1	2
切迫流産	3	4	3	1
FGR	2	2	4	4
胎児心拍異常	4	1	2	3
前置胎盤	1	0	3	5
脳血管障害合併症	0	0	1	0
心疾患合併症	0	1	0	1
交通外傷等の外傷	2	0	1	0
産褥搬送	1	1	1	1
その他	11	22	12	13
合計	70	90	87	96

新生児入院者のうち人工呼吸管理者数 (単位:人)

	H29	H30	R1	R2
新生児入院者数	173	190	191	153
人工呼吸管理者数	48	61	42	46

※ 院外出生者含む

出生体重別の入院者数及び死亡者数 (単位:人)

	H29	H30	R1	R2
1,000g未満	17	13	14	19
うち死亡者数	0	2	2	1
1,000g以上1,500g未満	21	25	34	31
うち死亡者数	0	0	1	0
1,500g以上2,500g未満	68	88	75	63
うち死亡者数	1	0	1	0
2,500g以上	67	64	68	40
うち死亡者数	0	1	0	1
合計	173	190	191	153
うち死亡者数	1	3	4	2

※ 院外出生者含む

【実績(その他の取組状況)】

- NICUでは、平成25年度からNICU入院児退院支援コーディネーター1人を配置し、退院支援を行っている。また、平成30年度から正規職員を配置し、支援の充実を図っている。

NICU入院児退院支援件数 (単位:件)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
支援件数	199	199	174	178	146	154	(5.5%増)

- 胎児超音波スクリーニング検査などにより、胎児の疾患の早期発見に努めるとともに、分娩までの継続的なサポートを実施している。検査の実施件数は、前年度と比べて18.8%減の1,654件となった。

超音波スクリーニング検査等の状況 (単位:人)

	H28	H29	H30	R1	R2	
妊娠初期胎児超音波スクリーニング検査	39	6	15	12	17	(41.7%増)
妊娠中期胎児超音波スクリーニング検査	907	1,442	1,545	1,939	1,579	(18.6%減)
非侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)	42	64	75	87	58	(33.3%減)
計	988	1,512	1,635	2,038	1,654	(18.8%減)

- MFICUの延べ入院患者数は、前年度と比べて15.4%減の1,486人となった。また、NICUの延べ入院患者数は、4.8%増の3,789人となった。

MFICU、NICUの延べ入院患者数 (単位:人)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
MFICU	320	496	1,554	1,562	1,757	1,486	(15.4%減)
NICU	4,221	3,962	3,841	3,783	3,616	3,789	(4.8%増)

- 分娩取扱件数は、前年度と比べて2.7%減の770件となった。

分娩取扱件数 (単位:件)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
(中病の占める割合)	(11.7%)	(12.9%)	(12.3%)	(13.2%)	(15.2%)	(14.8%)	
中病入院件数	699	750	704	735	791	770	
県内全体	5,987	5,819	5,705	5,556	5,193	5,184	

- 産後のうつ予防や新生児への虐待予防等を図るため、平成30年度から県内全市町村を対象とした産婦検診を実施しており、検査者数は前年度と比べて3.3%増の1,296件となった。

産婦検診実績 (単位:人)

	H29	H30	R1	R2	
検査者数	485	1,146	1,255	1,296	(3.3%増)

※H29年7月より開始。H30年4月より県内全市町村で実施(H29年度は甲府市、甲斐市、中央市、昭和町のみ実施)

- 県・甲府市からの依頼により、令和2年9月から新型コロナウイルス感染症に不安を抱える妊婦へのPCR検査を実施し、院外の妊婦29件、院内の妊婦361件、計390件の検査を実施した。

中期計画
<p>ウ がん医療 専門的ながん医療の提供、地域との連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援・情報提供など、がん診療連携拠点病院としての機能を拡充する。院内のより緊密な連携体制を確立する中で、チーム医療を推進するなど、がんの包括的診療体制を充実し、がん医療の質の向上に努める。 また、ゲノム医療の推進に取り組み、がんゲノム医療の拠点病院としての機能を強化する。</p> <p>(7) がん治療の充実 手術、化学療法及び放射線療法を効果的に組み合わせた集学的治療の推進やがん相談など治療に伴う精神的ケアの支援により、がん治療の充実を図る。</p> <p>(イ) ゲノム医療の推進 遺伝子検査を行い、患者の遺伝子の異常を明らかにすることで、患者一人ひとりに最適な治療方法の選択、臨床試験・治験の実施等につながるゲノム医療を推進する。また、がんゲノム医療の拠点病院としての機能を強化する。</p> <p>(ロ) ゲノム解析の推進 ゲノム解析センターにおいて、遺伝子情報の解析を行い、科学的根拠に基づいた適切な薬剤投与方法や診断法を確立し、患者一人ひとりに合わせた次世代型のがん医療提供に向けて、臨床と研究の一体的な取組を推進する。</p> <p>(イ) 遺伝カウンセリングの充実 乳がんや卵巣がん等遺伝子の関与が疑われるがん患者等に対してカウンセリングを実施し、得られた結果に基づき適切な治療を行う。</p> <p>(ロ) キャンサーボードの充実 がん患者の状態や意向を踏まえた適切な治療を行い、がん医療の質の向上を図るため、院内外の各専門領域の医師、看護師及び検査技師等が参加し、手術、化学療法、放射線療法などの治療方法を包括的に議論する場であるキャンサーボードの充実に努める。</p> <p>(ハ) 緩和ケア診療の充実 患者の身体の苦痛及び家族の不安などを軽減するため、緩和ケア診療の充実に取り組む。</p>

年度計画
<p>ウ がん医療</p> <p>(7) がん治療の充実 手術、化学療法及び放射線療法を効果的に組み合わせた集学的治療の推進やがん相談など治療に伴う精神的ケアの支援により、がん治療の充実を図る。また、がんセミナーや市民公開講座を開催するなど、県民に向けた情報提供等に取り組む。</p> <p>(イ) ゲノム医療の推進 中央病院においては、令和元年11月から開始した「遺伝子パネル検査」を東京大学と連携して積極的に行うとともに、患者の遺伝子の状態を明らかにすることで、患者一人ひとりに最適な治療方法の選択、臨床試験・治験の実施等につなげていく。</p> <p>(ロ) ゲノム解析の推進 ゲノム解析センターにおいて、遺伝子情報の解析を行い、科学的根拠に基づいた適切な薬剤投与方法や診断法を確立し、患者一人ひとりに合わせた次世代型のがん医療提供に向けて、臨床と研究の一体的な取組を推進する。</p> <p>(イ) 遺伝カウンセリングの充実 乳がんや卵巣がん等遺伝子の関与が疑われるがん患者等に対してカウンセリングを実施し、得られた結果に基づき適切な治療を行う。</p> <p>(ロ) キャンサーボードの充実 がん患者の状態や意向を踏まえた適切な治療を行い、がん医療の質の向上を図るため、院内外の各専門領域の医師、看護師及び検査技師等が参加し、手術、化学療法、放射線療法などの治療方法を包括的に議論する場であるキャンサーボードの充実に努める。</p> <p>(ハ) 緩和ケア診療の充実 患者の身体の苦痛及び家族の不安などを軽減するため、緩和ケア診療の充実に取り組む。</p>

業務実績及び法人の自己評価																																																																							
(3)がん医療	<table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>S</th> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</td> </tr> </table>	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																																			
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																																					
<ul style="list-style-type: none"> 中央病院の新規入院患者数は、前年度と比べて1.7%減の14,045人、うち新規入院がん患者数は、1.5%増の3,940人となった。 	<table border="1"> <caption>中央病院におけるがん患者の状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>(暦年)</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 年間新規入院患者数</td> <td>13,698</td> <td>14,444</td> <td>14,535</td> <td>14,472</td> <td>14,283</td> <td>14,045</td> <td>(1.7%減)</td> </tr> <tr> <td>B うち年間新規入院がん患者数</td> <td>3,659</td> <td>4,006</td> <td>3,788</td> <td>3,133</td> <td>3,883</td> <td>3,940</td> <td>(1.5%増)</td> </tr> </tbody> </table>	(暦年)	H27	H28	H29	H30	R1	R2		A 年間新規入院患者数	13,698	14,444	14,535	14,472	14,283	14,045	(1.7%減)	B うち年間新規入院がん患者数	3,659	4,006	3,788	3,133	3,883	3,940	(1.5%増)																																														
(暦年)	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																	
A 年間新規入院患者数	13,698	14,444	14,535	14,472	14,283	14,045	(1.7%減)																																																																
B うち年間新規入院がん患者数	3,659	4,006	3,788	3,133	3,883	3,940	(1.5%増)																																																																
<ul style="list-style-type: none"> がん化学療法患者数は、前年度と比べて4.8%増の14,343人となった。 	<table border="1"> <caption>がん化学療法治療患者のATCCと入院との比較 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ATCC</td> <td>6,857</td> <td>8,303</td> <td>9,271</td> <td>9,478</td> <td>10,745</td> <td>11,405</td> <td>(6.1%増)</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>2,924</td> <td>3,300</td> <td>3,220</td> <td>2,972</td> <td>2,945</td> <td>2,938</td> <td>(0.2%減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9,781</td> <td>11,603</td> <td>12,491</td> <td>12,450</td> <td>13,690</td> <td>14,343</td> <td>(4.8%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ATCC: 通院加療がんセンター</p>		H27	H28	H29	H30	R1	R2		ATCC	6,857	8,303	9,271	9,478	10,745	11,405	(6.1%増)	入院	2,924	3,300	3,220	2,972	2,945	2,938	(0.2%減)	合計	9,781	11,603	12,491	12,450	13,690	14,343	(4.8%増)																																						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																	
ATCC	6,857	8,303	9,271	9,478	10,745	11,405	(6.1%増)																																																																
入院	2,924	3,300	3,220	2,972	2,945	2,938	(0.2%減)																																																																
合計	9,781	11,603	12,491	12,450	13,690	14,343	(4.8%増)																																																																
<ul style="list-style-type: none"> 通院加療がんセンターの待ち時間短縮のため、ベッド数を6床増床し38床にするとともに、患者サービス向上のためリクライニングチェアを11脚購入した。 近年がん治療の新薬として注目されている、免疫チェックポイント阻害剤について、治療対象の拡大に応じ適切な投与を進めている。 	<table border="1"> <caption>免疫チェックポイント阻害剤使用数量 (単位:本)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オブジーボ点滴静注100mg</td> <td>37</td> <td>268</td> <td>596</td> <td>439</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>オブジーボ点滴静注20mg</td> <td>77</td> <td>583</td> <td>984</td> <td>375</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>オブジーボ点滴静注240mg</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>119</td> <td>411</td> <td>520</td> </tr> <tr> <td>キイトルーダ点滴静注100mg</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>282</td> <td>279</td> <td>1,022</td> <td>1,268</td> </tr> <tr> <td>テセントリク点滴静注1200mg</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>45</td> <td>110</td> <td>242</td> </tr> <tr> <td>イミフィンジ点滴静注120mg</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>13</td> <td>557</td> <td>808</td> </tr> <tr> <td>イミフィンジ点滴静注500mg</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>14</td> <td>31</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>ヤーボイ点滴静注液50mg</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	オブジーボ点滴静注100mg	37	268	596	439	-	-	オブジーボ点滴静注20mg	77	583	984	375	-	-	オブジーボ点滴静注240mg	-	-	-	119	411	520	キイトルーダ点滴静注100mg	-	2	282	279	1,022	1,268	テセントリク点滴静注1200mg	-	-	-	45	110	242	イミフィンジ点滴静注120mg	-	-	-	13	557	808	イミフィンジ点滴静注500mg	-	-	-	14	31	17	ヤーボイ点滴静注液50mg	-	6	-	4	3	34							
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																	
オブジーボ点滴静注100mg	37	268	596	439	-	-																																																																	
オブジーボ点滴静注20mg	77	583	984	375	-	-																																																																	
オブジーボ点滴静注240mg	-	-	-	119	411	520																																																																	
キイトルーダ点滴静注100mg	-	2	282	279	1,022	1,268																																																																	
テセントリク点滴静注1200mg	-	-	-	45	110	242																																																																	
イミフィンジ点滴静注120mg	-	-	-	13	557	808																																																																	
イミフィンジ点滴静注500mg	-	-	-	14	31	17																																																																	
ヤーボイ点滴静注液50mg	-	6	-	4	3	34																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療患者数は8,907人、治療門数は前年度と比べて0.2%減の26,849門であった。また、患者の放射線被ばくによる副作用の軽減及び治療効果を高めるための定位放射線治療の患者数は、205.3%増の174人であった。 	<table border="1"> <caption>放射線治療の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ患者数(人)</td> <td>8,651</td> <td>9,303</td> <td>8,686</td> <td>8,793</td> <td>8,915</td> <td>8,907</td> </tr> <tr> <td>治療門数(門)</td> <td>24,953</td> <td>35,457</td> <td>34,556</td> <td>34,926</td> <td>26,896</td> <td>26,849</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>リニアックによる高精度放射線治療の状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>強度変調放射線治療</td> <td>96</td> <td>69</td> <td>(28.1%減)</td> </tr> <tr> <td>(体幹部)定位放射線治療</td> <td>57</td> <td>174</td> <td>(205.3%増)</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	延べ患者数(人)	8,651	9,303	8,686	8,793	8,915	8,907	治療門数(門)	24,953	35,457	34,556	34,926	26,896	26,849		R1	R2		強度変調放射線治療	96	69	(28.1%減)	(体幹部)定位放射線治療	57	174	(205.3%増)																																					
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																	
延べ患者数(人)	8,651	9,303	8,686	8,793	8,915	8,907																																																																	
治療門数(門)	24,953	35,457	34,556	34,926	26,896	26,849																																																																	
	R1	R2																																																																					
強度変調放射線治療	96	69	(28.1%減)																																																																				
(体幹部)定位放射線治療	57	174	(205.3%増)																																																																				
<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度から最新型の低侵襲手術支援ロボットであるda Vinci Xiを導入し、令和2年度末までに子宮手術を341例、前立腺がん手術を222例、胃手術を140例、腎臓がん手術を57例実施した。また、令和2年7月から子宮(腹腔鏡下仙骨腫固定術)を対象手術とした。なお、ロボット支援下至急悪性腫瘍手術(子宮体癌)の手術件数は、全国2位である。 	<table border="1"> <caption>da Vinci Xi 部位別手術件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前立腺</td> <td>23</td> <td>39</td> <td>58</td> <td>53</td> <td>49</td> <td>(7.5%減)</td> </tr> <tr> <td>腎</td> <td>5</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>(9.1%増)</td> </tr> <tr> <td>子宮(体癌)</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>26</td> <td>31</td> <td>92</td> <td>(196.8%増)</td> </tr> <tr> <td>子宮(体癌以外)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>29</td> <td>76</td> <td>77</td> <td>(1.3%増)</td> </tr> <tr> <td>食道</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>14</td> <td>(75.0%増)</td> </tr> <tr> <td>胃</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>22</td> <td>42</td> <td>76</td> <td>(81.0%増)</td> </tr> <tr> <td>縦隔(悪性)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>(16.7%増)</td> </tr> <tr> <td>縦隔(良性)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>(25.0%減)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>36</td> <td>56</td> <td>151</td> <td>231</td> <td>330</td> <td>(42.9%増)</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2		前立腺	23	39	58	53	49	(7.5%減)	腎	5	15	14	11	12	(9.1%増)	子宮(体癌)	8	2	26	31	92	(196.8%増)	子宮(体癌以外)	-	-	29	76	77	(1.3%増)	食道	-	-	2	8	14	(75.0%増)	胃	-	-	22	42	76	(81.0%増)	縦隔(悪性)	-	-	-	6	7	(16.7%増)	縦隔(良性)	-	-	-	4	3	(25.0%減)	計	36	56	151	231	330	(42.9%増)
	H28	H29	H30	R1	R2																																																																		
前立腺	23	39	58	53	49	(7.5%減)																																																																	
腎	5	15	14	11	12	(9.1%増)																																																																	
子宮(体癌)	8	2	26	31	92	(196.8%増)																																																																	
子宮(体癌以外)	-	-	29	76	77	(1.3%増)																																																																	
食道	-	-	2	8	14	(75.0%増)																																																																	
胃	-	-	22	42	76	(81.0%増)																																																																	
縦隔(悪性)	-	-	-	6	7	(16.7%増)																																																																	
縦隔(良性)	-	-	-	4	3	(25.0%減)																																																																	
計	36	56	151	231	330	(42.9%増)																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> がん患者の治療に伴う精神的ケアの充実に積極的に取り組んでいる。平成27年8月からは、相談体制の強化のため、がん看護外来を設置し、緩和ケア認定看護師等により、がん治療に対する専門的かつ継続的なカウンセリングを行った。 																																																																							

がん相談支援センター相談実績 (単位:件)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
相談件数	4,969	4,041	4,121	3,386	2,200	1,459

がん看護外来の状況(平成27年8月開設)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
新規患者数(人)	104	363	352	325	391	177
面談件数(件)	323	1,585	1,277	1,502	1,081	791

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、がんセミナーや市民公開講座は開催できなかったが、山梨日日新聞の紙面上で「やまなし医療最前線」として、「(がんからの)奇跡の生還」や「きれいに早く」等の連載により、がんに係る最新医療等の情報提供を行った。

平成31年2月に東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として先進医療B「遺伝子パネル検査」の実施医療機関に指定され、令和元年6月に保険収載された、がんゲノム遺伝子パネル検査を25件実施した。

がんゲノム遺伝子パネル検査によって確認されたがん患者の遺伝子変異について、解析・評価を行い、その患者にとって最適な医薬品・治験等について検討する東京大学とのパネル会議を48回開催し、22の症例について検討した。

がんパネル会議の状況

	R1.11~	R2	
開催回数	11回	48回	(336.4%増)
症例数	12件	22件	(83.3%増)

がんゲノム解析検査件数は、前年同期と比べて44.5%減の1,623件であった。
令和元年12月から、肺がん診療において、非小細胞肺がんの4つの遺伝子(EGFR、ALK、ROS1、BRAF)を同時に測定する「Oncomine Dx Target Test マルチCDxシステム」を導入し、少量の検体から抽出した検査材料(核酸、DNAとRNA)を一度に測定し、ゲノム異常に合わせた最新の有効的な分子標的治療薬を患者さんに処方している。
令和元年度の検査件数は32件であり、令和2年度の検査件数は57件であった。

がんゲノム解析検査件数 (単位:件)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
検査件数	966	1,152	1,198	1,983	2,926	1,623	(44.5%減)
うちUGT1A1	0	0	0	44	66	87	(31.8%増)
うちJAK2	0	0	0	76	94	142	(51.1%増)
うちCALR	0	0	0	0	41	14	(65.9%減)
うちMPL	0	0	0	0	31	13	(58.1%減)
うちRAS/BRAF	0	0	0	37	51	65	(27.5%増)
うちMSI(FALCO)	0	0	0	112	173	101	(41.6%減)
うちMSI(家族)	0	0	0	15	9	2	(77.8%減)
うちBRCA1/2	0	0	0	9	12	4	(66.7%減)
うちOncomine	0	0	0	0	32	57	(28.1%増)

平成25年度から遺伝カウンセリングを実施し、得られた結果に基づき適切な治療を行っており、令和2年度の実績は6件であった。

遺伝カウンセリング実績 (単位:件)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
カウンセリング	9	27	26	26	22	6

院内外の医療従事者を対象にしたがんボードを開催し、がん医療の質の向上に努めている。

がんボード実績 (単位:回)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実施回数	27	31	29	24	28	16

緩和ケアチームが一般病棟の患者に対し、回診を行っている。また、緩和ケア部会では、緩和ケア病棟や緩和ケア外来等の運用や課題について検討を行った。なお、緩和ケア勉強会については、新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は開催できなかった。

緩和ケア外来患者、回診の状況 (単位:人)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
外来患者数	1,501	1,053	1,686	1,300	1,386	1,183
延べ回診患者数	962	1,284	1,166	2,040	1,589	1,339

平成28年7月に甲府公共職業安定所と協定書を締結し、がん等の疾病で長期にわたり治療が必要となる患者に対し、治療と両立できる求人の開拓や就職後の職場定着の支援を行う就職支援ナビゲーターによる出張相談を当院のがんセンターで実施している。令和2年度は、1件面談を行った。

令和2年度のがんリハビリテーションの患者数は、前年度と比較して、17名増の156名であった。

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																																																			
<p>エ 循環器病医療 循環器病対策基本法に基づき、循環器病患者に対する高度で専門的な医療を提供するため、施設、人員、医療機器等の体制の充実を図る。</p>	<p>エ 循環器病医療</p> <ul style="list-style-type: none"> 循環器病対策基本法に基づき、循環器病患者に対する高度で専門的な医療を提供するため、手術室の改修及びカテーテル室の増設等に向けた準備を進める。 循環器病患者に対して良質かつ適切なリハビリテーションを行うため、先進病院の視察を行うとともに、施設基準取得に向けた調査等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月に、県と共同で、がん診断されて間もない患者さんの思いに寄り添い、支援の一助となることを目指して、「信頼でき、わかりやすく、役立つ情報」を一冊にまとめた「患者必携～山梨県がんサポートブック」を改定した。 令和2年9月に、原発性、転移性を問わず、骨や筋肉にできる腫瘍を包括的に診ることを目的とした骨転移外来(運動器腫瘍外来)を開設した。 <p>(4)循環器医療</p> <table border="1" data-bbox="1507 401 2792 485"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、高度救命救急センター内へER型ハイブリッド室及びX線血管撮影装置を配置するため、中央病院東側敷地の増築について、基本・実地設計業務の委託契約を締結し、令和3年9月の入札、令和4年8月の完成を予定している。(前述P8) 循環器センターでは、循環器内科と心臓血管外科が密接な連携をとり、急性期治療から亜急性期治療を中心に、24時間体制で治療を行っている。ステントグラフト内挿術のうち腸骨動脈分岐デバイスの令和2年度の症例数は国内最多であった。また、経静脈電極抜去など、新しい治療法についても積極的に取り入れている。 <p>アブレーション治療症例数 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="1537 737 2457 856"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アブレーション</td> <td>91</td> <td>139</td> <td>203</td> <td>300</td> <td>314</td> <td>296</td> <td>(5.7%減)</td> </tr> <tr> <td>(うち心房細動)</td> <td>(54)</td> <td>(65)</td> <td>(135)</td> <td>(209)</td> <td>(234)</td> <td>(243)</td> <td>(3.8%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>アブレーション…治療用のカテーテルで不整脈を起こす原因となっている異常な電気興奮の発生箇所を焼き切る治療法</p> <p>経皮的冠動脈インターベンション(PCI)の治療症例数 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="1537 884 2457 961"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>182</td> <td>178</td> <td>198</td> <td>218</td> <td>202</td> <td>214</td> <td>(3.8%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>PCI…動脈硬化で狭窄あるいは閉塞している心臓の血管(冠動脈)を、体外から挿入したカテーテルを使用して開大する治療法</p> <p>不整脈のデバイス治療症例数 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="1537 1024 2457 1171"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経静脈電極抜去</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋込型除細動器移植術(経静脈リード)ICD</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋込型除細動器移植術(皮下埋込型リード)S-ICD</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リードレスペースメーカー</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ステントグラフト内挿術の治療症例数 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="1537 1192 2665 1318"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胸部大動脈ステントグラフト内挿術(TEVAR)</td> <td>7</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>19</td> <td>36</td> <td>80</td> <td>(122.2%増)</td> </tr> <tr> <td>腹部大動脈/腸骨動脈ステントグラフト内挿術(EVAR)</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>38</td> <td>63</td> <td>81</td> <td>(28.6%増)</td> </tr> <tr> <td>EVARのうち腸骨動脈分岐デバイス</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>24</td> <td>(380.0%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>開胸手術の治療症例数 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="1537 1339 2457 1465"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>虚血性心疾患(CABG)</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>60</td> <td>44</td> <td>40</td> <td>(9.1%減)</td> </tr> <tr> <td>弁膜症(弁置換、弁形成)</td> <td>66</td> <td>62</td> <td>63</td> <td>53</td> <td>64</td> <td>48</td> <td>(25.0%減)</td> </tr> <tr> <td>胸部大動脈(開胸)</td> <td>45</td> <td>60</td> <td>59</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>41</td> <td>(19.6%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 早期からの途切れのないリハビリ医療の実施を目的として、試行的に令和2年6月～7月と11月に土曜日及び祝日のリハビリテーションを実施した。令和3年4月からは、人員体制を整え、通年で土曜日及び祝日におけるリハビリテーションを実施している。 ICU入室後早い段階での離床・リハビリに対する「早期離床・リハビリテーション加算」を令和3年1月から算定した。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2		アブレーション	91	139	203	300	314	296	(5.7%減)	(うち心房細動)	(54)	(65)	(135)	(209)	(234)	(243)	(3.8%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		PCI	182	178	198	218	202	214	(3.8%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		経静脈電極抜去	0	0	0	0	0	2		埋込型除細動器移植術(経静脈リード)ICD	0	7	5	5	7	7		埋込型除細動器移植術(皮下埋込型リード)S-ICD	0	2	0	4	3	3		リードレスペースメーカー	0	0	0	4	5	3			H27	H28	H29	H30	R1	R2		胸部大動脈ステントグラフト内挿術(TEVAR)	7	13	13	19	36	80	(122.2%増)	腹部大動脈/腸骨動脈ステントグラフト内挿術(EVAR)	5	11	11	38	63	81	(28.6%増)	EVARのうち腸骨動脈分岐デバイス	0	0	0	1	5	24	(380.0%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		虚血性心疾患(CABG)	38	41	40	60	44	40	(9.1%減)	弁膜症(弁置換、弁形成)	66	62	63	53	64	48	(25.0%減)	胸部大動脈(開胸)	45	60	59	49	51	41	(19.6%増)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																																																																																			
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																															
アブレーション	91	139	203	300	314	296	(5.7%減)																																																																																																																																														
(うち心房細動)	(54)	(65)	(135)	(209)	(234)	(243)	(3.8%増)																																																																																																																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																															
PCI	182	178	198	218	202	214	(3.8%増)																																																																																																																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																															
経静脈電極抜去	0	0	0	0	0	2																																																																																																																																															
埋込型除細動器移植術(経静脈リード)ICD	0	7	5	5	7	7																																																																																																																																															
埋込型除細動器移植術(皮下埋込型リード)S-ICD	0	2	0	4	3	3																																																																																																																																															
リードレスペースメーカー	0	0	0	4	5	3																																																																																																																																															
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																															
胸部大動脈ステントグラフト内挿術(TEVAR)	7	13	13	19	36	80	(122.2%増)																																																																																																																																														
腹部大動脈/腸骨動脈ステントグラフト内挿術(EVAR)	5	11	11	38	63	81	(28.6%増)																																																																																																																																														
EVARのうち腸骨動脈分岐デバイス	0	0	0	1	5	24	(380.0%増)																																																																																																																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																															
虚血性心疾患(CABG)	38	41	40	60	44	40	(9.1%減)																																																																																																																																														
弁膜症(弁置換、弁形成)	66	62	63	53	64	48	(25.0%減)																																																																																																																																														
胸部大動脈(開胸)	45	60	59	49	51	41	(19.6%増)																																																																																																																																														
<p>オ 難病(特定疾患)医療 専門医の継続的な治療を行うとともに、関係医療機関との連携を強化しながら、最適な医療の提供を行う。</p>	<p>オ 難病(特定疾患)医療 専門医の継続的な治療を行うとともに、関係医療機関との連携を強化しながら、最適な医療の提供を行う。</p>	<p>(5)難病(特定疾患)医療</p> <table border="1" data-bbox="1507 1696 2792 1780"> <tr> <td>評価</td> <td></td> <td>新型コロナウイルス感染症の影響により、評価なし</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 難病医療拠点病院として、山梨大学医学部附属病院と役割分担を行う中で、神経難病を除く特定疾患医療の患者を受け入れ、適切な医療を提供した。 県内の指定難病患者5,035人のうち、中央病院の患者数は、山梨大学医学部附属病院に次いで2番目に多い1,012人であり、診療割合は20.1%であった。 	評価		新型コロナウイルス感染症の影響により、評価なし																																																																																																																																																
評価		新型コロナウイルス感染症の影響により、評価なし																																																																																																																																																			

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																						
		<p>業務実績及び法人の自己評価</p> <p>難病患者数の推移 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>潰瘍性大腸炎</td> <td>202</td> <td>170</td> <td>195</td> <td>194</td> <td>(0.5%減)</td> </tr> <tr> <td>クローン病</td> <td>56</td> <td>53</td> <td>61</td> <td>60</td> <td>(1.6%減)</td> </tr> <tr> <td>突発性拡張型心筋症</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>45</td> <td>20</td> <td>(55.6%減)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>804</td> <td>791</td> <td>820</td> <td>738</td> <td>(10.0%減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,108</td> <td>1,057</td> <td>1,121</td> <td>1,012</td> <td>(9.7%減)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 臨床調査個人票作成件数(更新)は、新型コロナウイルス感染症の影響により、特定医療費(指定難病)受給者証の有効期間の満了日が自動的に1年延長されたことから、前年度と比べて98.4%減の13件となった。 <p>臨床調査個人票の状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床調査個人票作成件数(新規)</td> <td>73</td> <td>140</td> <td>205</td> <td>199</td> <td>183</td> <td>149</td> <td>(18.6%減)</td> </tr> <tr> <td>臨床調査個人票作成件数(更新)</td> <td>652</td> <td>796</td> <td>783</td> <td>765</td> <td>809</td> <td>13</td> <td>(98.4%減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>725</td> <td>936</td> <td>988</td> <td>964</td> <td>992</td> <td>162</td> <td>(83.7%減)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注:「臨床調査個人票」・・・難病患者の医療費助成制度の申請に必要な医師の診断書</p> <ul style="list-style-type: none"> 山梨県産業保健総合支援センターと連携して、当院に入院または、通院治療をしている患者のうち、治療を継続しながら仕事を続けることを希望する患者に対して個別調整支援を行う「治療と仕事の両立支援相談窓口」を令和2年5月1日に設置した。令和2年度の面談希望はなかった。 		H29	H30	R1	R2		潰瘍性大腸炎	202	170	195	194	(0.5%減)	クローン病	56	53	61	60	(1.6%減)	突発性拡張型心筋症	46	43	45	20	(55.6%減)	その他	804	791	820	738	(10.0%減)	合計	1,108	1,057	1,121	1,012	(9.7%減)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		臨床調査個人票作成件数(新規)	73	140	205	199	183	149	(18.6%減)	臨床調査個人票作成件数(更新)	652	796	783	765	809	13	(98.4%減)	合計	725	936	988	964	992	162	(83.7%減)		
	H29	H30	R1	R2																																																																				
潰瘍性大腸炎	202	170	195	194	(0.5%減)																																																																			
クローン病	56	53	61	60	(1.6%減)																																																																			
突発性拡張型心筋症	46	43	45	20	(55.6%減)																																																																			
その他	804	791	820	738	(10.0%減)																																																																			
合計	1,108	1,057	1,121	1,012	(9.7%減)																																																																			
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																		
臨床調査個人票作成件数(新規)	73	140	205	199	183	149	(18.6%減)																																																																	
臨床調査個人票作成件数(更新)	652	796	783	765	809	13	(98.4%減)																																																																	
合計	725	936	988	964	992	162	(83.7%減)																																																																	
<p>カ エイズ医療</p> <p>患者に対する総合的、専門的な医療を提供し、臨床心理士によるカウンセリングを行うとともに、エイズ治療拠点病院として山梨県の要請に応じた事業を実施する。</p>	<p>カ エイズ医療</p> <p>患者に対する総合的、専門的な医療を提供し、臨床心理士によるカウンセリングを行うとともに、エイズ治療拠点病院として山梨県の要請に応じた事業を実施する。</p>	<p>(6)エイズ医療</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>A</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院は、エイズ治療中核拠点病院として、県内の拠点病院を支援するとともに、医師、看護師による治療、薬剤師による服薬指導、臨床心理士によるカウンセリングなど、多職種による専門的な医療を提供した。 県内のHIV感染者及びAIDS患者の累計数は、令和2年12月末で183人であるが、中央病院の累積受診患者数は、143人であり、78.1%を当院で診療している。また、令和2年度の通院患者数は68人であり、新規受診症例は10例である。 <p>HIV感染者及びAIDS患者の累計数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中病</td> <td>103</td> <td>112</td> <td>121</td> <td>126</td> <td>132</td> <td>143</td> <td>(8.3%増)</td> </tr> <tr> <td>県内</td> <td>154</td> <td>166</td> <td>171</td> <td>172</td> <td>176</td> <td>183</td> <td>(4.0%増)</td> </tr> <tr> <td>中病診療割合</td> <td>66.9%</td> <td>67.5%</td> <td>70.8%</td> <td>73.3%</td> <td>75.0%</td> <td>78.1%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 患者からの要望に応じ、医師の判断に基づいて、臨床心理士によるカウンセリングを7回実施した。また、エイズ患者に対するチーム医療の推進を図るため、院外の臨床心理士を含めたHIV部会を3回開催し、エイズ患者等の症例検討や診療方針等を決定した。 <p>臨床心理士によるカウンセリング等の状況 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カウンセリング</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>7</td> <td>(53.3%減)</td> </tr> <tr> <td>HIV部会</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>(66.7%減)</td> </tr> <tr> <td>エイズ研修会</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>(増減なし)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護を行う医療機関、訪問看護事業所、訪問介護事業所及び居宅介護事業所等を支援するため、支援チームを派遣する体制を整えとともに、平成28年8月からエイズ予防財団が行っている「HIV支援チーム派遣事業」を受託し、支援チーム派遣事業設置中核拠点病院となっている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を実施できなかった。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中病	103	112	121	126	132	143	(8.3%増)	県内	154	166	171	172	176	183	(4.0%増)	中病診療割合	66.9%	67.5%	70.8%	73.3%	75.0%	78.1%			H27	H28	H29	H30	R1	R2		カウンセリング	11	14	13	13	15	7	(53.3%減)	HIV部会	10	11	12	9	9	3	(66.7%減)	エイズ研修会	1	2	5	3	1	1	(増減なし)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																						
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																		
中病	103	112	121	126	132	143	(8.3%増)																																																																	
県内	154	166	171	172	176	183	(4.0%増)																																																																	
中病診療割合	66.9%	67.5%	70.8%	73.3%	75.0%	78.1%																																																																		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																		
カウンセリング	11	14	13	13	15	7	(53.3%減)																																																																	
HIV部会	10	11	12	9	9	3	(66.7%減)																																																																	
エイズ研修会	1	2	5	3	1	1	(増減なし)																																																																	
<p>キ 感染症医療</p> <p>一類感染症(エボラ出血熱など7疾患)患者及び結核患者を受け入れる病室を活用し、山梨県の感染症指定医療機関としての医療を提供する。</p> <p>また、新型インフルエンザ患者など感染症患者に対する外来診療や、重篤患者に対する陰圧個室を使った入院治療など、専門的な医療を提供する。さらに山梨県内での感染症発生時には、県の指導を受けながら必要な情報の収集及び提供、患者の受入体制の構築に努める。</p>	<p>キ 感染症医療</p> <p>一類感染症(エボラ出血熱など7疾患)患者及び結核患者を受け入れる病室を活用し、山梨県の感染症指定医療機関としての医療を提供する。</p> <p>また、新型インフルエンザ患者など感染症患者に対する外来診療や、重篤患者に対する陰圧個室を使った入院治療など、専門的な医療を提供する。さらに山梨県内での感染症発生時には、県の指導を受けながら必要な情報の収集及び提供、患者の受入体制の構築に努める。</p>	<p>(7)感染症医療</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>S</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価</td> <td>S</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 第一種感染症指定医療機関として、総合診療科・感染症科の医師及び感染対策室に感染症専従の認定看護師2名を配置し、院内の感染症対策の強化を図っている。 一類感染症の患者を受け入れられる感染症病床2床、結核病床16床を確保し、受入体制を整えている。結核病床の入院患者数は、前年度と比べて2.0%減の49人であり、延べ入院患者数は、58.8%減の1,015人となった。 	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																																
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																																						
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																																						

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																								
		<p style="text-align: right;">(単位:人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>結核病床入院患者の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規入院患者数</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>25</td> <td>50</td> <td>49</td> <td>(2.0%減)</td> </tr> <tr> <td>年間延べ入院患者数</td> <td>1,230</td> <td>1,394</td> <td>1,724</td> <td>1,892</td> <td>2,466</td> <td>1,015</td> <td>(58.8%減)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ 結核病床入院した新型コロナウイルス患者を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染防止対策地域連携加算の算定要件となっている相互評価について、令和2年度は山梨大学付属病院と相互評価を実施した。 ・ 水痘、汎発性帯状疱疹、新型コロナウイルスなどの空気感染対策が必要な患者に対して、陰圧個室を使った入院治療を行った。陰圧個室の入院患者数は、前年度と比べて105.1%増の80人となった。 <p style="text-align: right;">(単位:人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>陰圧個室治療患者の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>13</td> <td>7</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>39</td> <td>80</td> <td>(105.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門医による感染症診断を行うための血液培養などの正しい検査の方法や適正な抗菌薬の使用などの研修会を実施するとともに、AMS(Antimicrobial stewardship[抗菌薬適正使用])による耐性菌増加の抑制、感染症診療に取り組んだ。令和2年度の抗菌薬(カルバペネム)の投与患者数は、前年度と比べて25.3%増の332人となった。 <p style="text-align: right;">(単位:人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>抗生物質(カルバペネム)の使用状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>投与患者数</td> <td>412</td> <td>309</td> <td>269</td> <td>243</td> <td>265</td> <td>332</td> <td>(25.3%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス患者については、令和2年度は139名、令和元年度を含めると143名の入院患者を治療した。 ・ 令和2年8月に県から新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受け、8B一般病床を陰圧室に改修するなど最大45症の受入れ体制を整えた。 ・ 令和2年2月から、情報共有のため、週3回(月、水、金)朝7:30より、多職種によるコロナ対策会議を開催している。 ・ 令和2年4月に、新型コロナ感染症の職員の罹患等により、診療規模を通常の5割以下に縮小せざるを得ない場合を想定して、事業継続計画BCPを作成した。 ・ 令和2年7月に院内感染防止と患者の診断・治療の指針としての「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」を作成し、電子カルテに掲載した。 ・ 新型コロナウイルス協力医療機関において、夜間に陽性患者が発生し、重症化もしくは重症化の恐れがある患者の受入要請があった場合、当院が曜日(月・水・金・日)により受け入れている。 ・ 令和2年5月から新型コロナウイルス感染症患者に対応するため、発熱外来用プレハブを9台設置し診療室等として活用した。また、新型コロナウイルスへの感染が疑われる人が病院を訪れた際に院内感染を防ぐため、山梨県から無償貸与を受け、令和3年3月に医療用コンテナを設置した。併せて、診断のためのポータブルX線装置や超音波画像診断装置、治療のための人工呼吸器20台や体外式模型人工肺(ECMO)2台等を整備した。 ・ 令和2年7月に、新型コロナウイルスの院内感染を想定した対応訓練を実施し、59名(院内56名、保健所等3名)が参加した。また、対応訓練で確認された課題に対する訓練を令和2年9月に実施し、53名が参加した。更に、11月には新型コロナウイルスに係る職員陽性者発生時の振り返り訓練を実施し、61名が参加した。 ・ 令和3年4月から、精神科病院及び障害者施設に入院、入所中の方で、新型コロナウイルス感染症が陽性であり、かつ精神障害等の程度により感染症病床への入院が困難な者について、県からの要請により受け入れることとした。 ・ 外国人患者に対して、多言語で新型コロナウイルスの感染防止上必要な情報を提供するため、デジタルサイネージ(電子看板)を設置した。 ・ 3密を避け、院内感染を予防するため、多目的ホールを職員や委託職員に昼食場所として、開放した。 ・ 新型コロナウイルス感染症患者の看護と感染対策ができる人材を育成するため、希望者26名に対して、新型コロナウイルス感染者の入院病棟で看護及び環境整備などの実務経験の機会を設けた。また、経験を積んだ看護師をクラスターが発生した老人施設等へ派遣した。 ・ 新型コロナウイルス感染症患者用エリア内でシャワー浴が行えるよう、機械浴室をシャワールームに改築するとともに、専用の洗濯機、乾燥機を設置した。 		H27	H28	H29	H30	R1	R2		新規入院患者数	27	27	33	25	50	49	(2.0%減)	年間延べ入院患者数	1,230	1,394	1,724	1,892	2,466	1,015	(58.8%減)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		患者数	13	7	13	15	39	80	(105.1%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		投与患者数	412	309	269	243	265	332	(25.3%増)
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																				
新規入院患者数	27	27	33	25	50	49	(2.0%減)																																																			
年間延べ入院患者数	1,230	1,394	1,724	1,892	2,466	1,015	(58.8%減)																																																			
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																				
患者数	13	7	13	15	39	80	(105.1%増)																																																			
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																				
投与患者数	412	309	269	243	265	332	(25.3%増)																																																			

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																														
		<ul style="list-style-type: none"> 24時間体制の発熱外来において、PCR検査に加え、コロナ、インフルを含む21種類のウイルス・細菌を50分で検出できる機器「フィルムアレイ」を稼働させ、高感度で迅速な検査体制を構築した。 令和2年度の新型コロナウイルス感染症の院内検査実績は、PCR検査17,511件、フィルムアレイ検査3,587件、抗原検査8,348件、抗体検査10,105件であった。 令和2年度新型コロナウイルス感染症のPCR検査の状況 <table border="1" data-bbox="1537 380 2086 443"> <thead> <tr> <th></th> <th>県内全体</th> <th>衛環研</th> <th>中病</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検査数</td> <td>61,784件</td> <td>17,155件</td> <td>17,511件</td> </tr> </tbody> </table> 新型コロナウイルス感染症患者から採取した検体の遺伝子配列を295例解析し、アルファ株137例、ガンマ株1例、デルタ株1例を確認した。ガンマ株は検疫以外で国内初確認であった。(R3.6.30時点) <table border="1" data-bbox="1546 537 2368 680"> <thead> <tr> <th colspan="5">新型コロナウイルス感染症(変異株)の状況(R3.6.30時点)</th> <th>(単位:例)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>アルファ株</th> <th>ガンマ株</th> <th>デルタ株</th> <th>解析不能</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県内</td> <td>411</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>21</td> <td>435</td> </tr> <tr> <td>当院</td> <td>137</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>139</td> </tr> <tr> <td>中病の割合</td> <td>33.3%</td> <td>50.0%</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>32.0%</td> </tr> </tbody> </table> GISAID(新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)ゲノムやインフルエンザウイルスの情報などに関する国際的データベース)の日本全国の登録数50,978件、県内登録数296件のうち、当院の登録数は295件であり、1件を除き全て当院からのデータであった。(R3.6.30時点) 		県内全体	衛環研	中病	検査数	61,784件	17,155件	17,511件	新型コロナウイルス感染症(変異株)の状況(R3.6.30時点)					(単位:例)		アルファ株	ガンマ株	デルタ株	解析不能	合計	県内	411	2	1	21	435	当院	137	1	1	0	139	中病の割合	33.3%	50.0%	100.0%	—	32.0%																								
	県内全体	衛環研	中病																																																													
検査数	61,784件	17,155件	17,511件																																																													
新型コロナウイルス感染症(変異株)の状況(R3.6.30時点)					(単位:例)																																																											
	アルファ株	ガンマ株	デルタ株	解析不能	合計																																																											
県内	411	2	1	21	435																																																											
当院	137	1	1	0	139																																																											
中病の割合	33.3%	50.0%	100.0%	—	32.0%																																																											
<p>②県立北病院 精神科救急・急性期医療や通院医療などの充実や、心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関等の役割を果たすとともに、依存症や認知症の医療の提供について一層の高度化を図る。</p>	<p>②県立北病院 精神科救急・急性期医療や通院医療などの充実や、心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関等の役割を果たすとともに、依存症や認知症の医療の提供について一層の高度化を図る。</p>																																																															
<p>ア 精神科救急・急性期医療 山梨県における精神科救急医療体制の重要な役割を担うとともに、集中的な治療を要する患者に、急性期の特性に合わせて、手厚い治療と多職種治療チームによる総合的で一貫した医療を提供することで早期退院を図り、通院や退院後のリハビリテーションに結びつける。</p>	<p>ア 精神科救急・急性期医療 山梨県における精神科救急医療体制の重要な役割を担うとともに、集中的な治療を要する患者に、急性期の特性に合わせて、手厚い治療と多職種治療チームによる総合的で一貫した医療を提供することで早期退院を図り、通院や退院後のリハビリテーションに結びつける。</p>	<p>(8)精神科救急・急性期医療</p> <table border="1" data-bbox="1507 1035 2792 1121"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>S</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> スーパー救急病棟2病棟への入院患者に対しては、集中した治療を実施した。延べ入院患者数は、前年度と比べて、6.1%減の22,051人であったが、平均在院日数は2日減と早期退院に努めた。 救急病棟入院患者・平均在院日数の状況 (単位:人) <table border="1" data-bbox="1525 1224 2445 1339"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ患者数</td> <td>23,122</td> <td>23,801</td> <td>23,818</td> <td>22,172</td> <td>23,485</td> <td>22,051</td> <td>(6.1%減)</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>50.8日</td> <td>43.5日</td> <td>47.8日</td> <td>53日</td> <td>48.9日</td> <td>46.9日</td> <td>(2.0日減)</td> </tr> </tbody> </table> 毎週、医師、看護師、ケースワーカー、デイケアに携わるコメディカルスタッフによるケース会議を開催し、患者の治療、退院促進、退院後のリハビリテーション等について、総合的で一貫した医療を提供した。 平成27年度から本格的に県の精神科救急医療体制の24時間化に対応し、精神科救急受診相談センターの業務の一部を担うとともに、センターで救急医療が必要と判断された患者を常時対応型病院として受け入れる体制を構築した。精神科救急の受入患者数は前年度と比べて22.2%減の56人(入院37人・外来19人)となった。 精神科救急医療の受入状況 <table border="1" data-bbox="1537 1528 2356 1650"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入件数</td> <td>67</td> <td>69</td> <td>71</td> <td>76</td> <td>72</td> <td>56</td> <td>(22.2%減)</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>38</td> <td>48</td> <td>54</td> <td>55</td> <td>40</td> <td>37</td> <td>(7.5%減)</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>29</td> <td>21</td> <td>17</td> <td>21</td> <td>32</td> <td>19</td> <td>(40.6%減)</td> </tr> </tbody> </table> 	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている					H27	H28	H29	H30	R1	R2		延べ患者数	23,122	23,801	23,818	22,172	23,485	22,051	(6.1%減)	平均在院日数	50.8日	43.5日	47.8日	53日	48.9日	46.9日	(2.0日減)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		受入件数	67	69	71	76	72	56	(22.2%減)	入院	38	48	54	55	40	37	(7.5%減)	外来	29	21	17	21	32	19	(40.6%減)
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																										
延べ患者数	23,122	23,801	23,818	22,172	23,485	22,051	(6.1%減)																																																									
平均在院日数	50.8日	43.5日	47.8日	53日	48.9日	46.9日	(2.0日減)																																																									
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																										
受入件数	67	69	71	76	72	56	(22.2%減)																																																									
入院	38	48	54	55	40	37	(7.5%減)																																																									
外来	29	21	17	21	32	19	(40.6%減)																																																									
<p>イ 児童思春期精神科医療 思春期に特有な精神疾患の治療について、山梨県内唯一の児童思春期病棟を有する病院として、より高度で専門的な医療を関係機関と連携して提供する。</p>	<p>イ 児童思春期精神科医療 思春期に特有な精神疾患の治療について、山梨県内唯一の児童思春期病棟を有する病院として、より高度で専門的な医療を関係機関と連携して提供する。</p>	<p>(9)児童思春期精神科医療</p> <table border="1" data-bbox="1507 1722 2792 1808"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>S</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童思春期病棟を持つ病院として、看護師配置を10:1と手厚くし、専従のコメディカルを配置するなど、病院の機能強化を図った。また、増加傾向にある児童・思春期患者に対応するため、児童思春期の初診時の診断及び治療を標準化し、児童思春期専門医による指導体制を確立することで、より高度で専門的な診療を実施した。 	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																											
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																														

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																														
		<ul style="list-style-type: none"> 児童思春期病棟の延べ入院患者数は、前年度と比べて12.5%増の6,122人、外来患者数は25.5%増の5,957人となった。 こころの発達総合支援センターと連携を図り、児童思春期症例の患者を専門に診療するとともに、思春期精神科ショートケアを週3回実施し、前年度と比べて47.8%増の507人の参加者があった。 <p>児童思春期患者の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>4,843人</td> <td>4,716人</td> <td>4,993人</td> <td>5,812人</td> <td>5,441人</td> <td>6,122人</td> <td>(12.5%増)</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>67.7日</td> <td>86.5日</td> <td>71.3日</td> <td>84.8日</td> <td>66.8日</td> <td>64.1日</td> <td>(2.7日減)</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>3,619人</td> <td>4,019人</td> <td>4,614人</td> <td>4,674人</td> <td>4,745人</td> <td>5,957人</td> <td>(25.5%増)</td> </tr> <tr> <td>ショートケア参加者数</td> <td>276人</td> <td>316人</td> <td>395人</td> <td>526人</td> <td>343人</td> <td>507人</td> <td>(47.8%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 入院を要する児童思春期症例の患者の家族を対象に、家族支援プログラムを導入することにより、患者と家族をサポートしている。平成29年度からは、通院患者家族に対しても家族支援プログラムの導入を開始した。前年度と比べて、入院患者家族が13.0%増の139名、通院患者家族が98.6%増の143名で、計282名が受講した。 児童思春期症例の患者に対する通院治療の充実を図るため、児童思春期精神科専門管理加算の届出を行い、平成28年7月から算定を開始した。前年度と比べて、17.7%増の延べ1,756人の患者が加算の対象となった。 		H27	H28	H29	H30	R1	R2		入院患者数	4,843人	4,716人	4,993人	5,812人	5,441人	6,122人	(12.5%増)	平均在院日数	67.7日	86.5日	71.3日	84.8日	66.8日	64.1日	(2.7日減)	外来患者数	3,619人	4,019人	4,614人	4,674人	4,745人	5,957人	(25.5%増)	ショートケア参加者数	276人	316人	395人	526人	343人	507人	(47.8%増)																						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																										
入院患者数	4,843人	4,716人	4,993人	5,812人	5,441人	6,122人	(12.5%増)																																																									
平均在院日数	67.7日	86.5日	71.3日	84.8日	66.8日	64.1日	(2.7日減)																																																									
外来患者数	3,619人	4,019人	4,614人	4,674人	4,745人	5,957人	(25.5%増)																																																									
ショートケア参加者数	276人	316人	395人	526人	343人	507人	(47.8%増)																																																									
<p>ウ 心神喪失者等医療観察法に基づく医療</p> <p>心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関として最適な医療を提供し、対象者に対して、指定入院から指定通院に向かう一貫した治療体系の中で適切な治療を提供し、社会復帰の促進を図る。</p>	<p>ウ 心神喪失者等医療観察法に基づく医療</p> <p>心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関として最適な医療を提供し、対象者に対して、指定入院から指定通院に向かう一貫した治療体系の中で適切な治療を提供し、社会復帰の促進を図る。</p>	<p>(10)心神喪失者等医療観察法に基づく医療</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>A</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 県内唯一の指定入院医療機関として多職種治療チームによる手厚い医療を提供し、退院と社会復帰を進めている。令和2年度における5床の指定入院病床の稼働率は100%であった。 通院対象者に対しては、多職種治療チーム(MDT)による治療体制を継続する中で、デイケアや訪問看護も実施し、多くの通院患者を支える体制を継続している。 (令和2年度末日現在:指定入院 5人、指定通院 5人) <p>入院対象者数の状況(3月31日現在) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院対象者数</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>新規者数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>(50.0%減)</td> </tr> <tr> <td>転入者数</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>(皆増)</td> </tr> <tr> <td>退院者数</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>(皆増)</td> </tr> <tr> <td>転院者数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>通院対象者数</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>(25.0%増)</td> </tr> </tbody> </table>	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている					H27	H28	H29	H30	R1	R2		入院対象者数	4	5	3	3	5	5	(増減なし)	新規者数	2	2	0	3	2	1	(50.0%減)	転入者数	0	2	1	0	0	1	(皆増)	退院者数	2	3	3	3	0	2	(皆増)	転院者数	0	0	0	0	0	0	(増減なし)	通院対象者数	9	7	6	6	4	5	(25.0%増)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																										
入院対象者数	4	5	3	3	5	5	(増減なし)																																																									
新規者数	2	2	0	3	2	1	(50.0%減)																																																									
転入者数	0	2	1	0	0	1	(皆増)																																																									
退院者数	2	3	3	3	0	2	(皆増)																																																									
転院者数	0	0	0	0	0	0	(増減なし)																																																									
通院対象者数	9	7	6	6	4	5	(25.0%増)																																																									
<p>エ 重度・慢性入院患者への医療</p> <p>集中的な救急・急性期治療によっても早期の退院が困難な重症患者や長期在院重症患者に、さらに高度な薬物治療等や多職種治療チームによる治療体制を強化し、退院と社会復帰を目指す。</p>	<p>エ 重度・慢性入院患者への医療</p> <p>集中的な救急・急性期治療によっても早期の退院が困難な重症患者や長期在院重症患者に、さらに高度な薬物治療等や多職種治療チームによる治療体制を強化し、退院と社会復帰を目指す。</p>	<p>(11)重度・慢性入院患者への医療</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>A</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 1年以上入院を継続し、精神症状が重く、自傷他害のリスク、社会適応能力の重大な問題等のため退院が困難な重度・慢性入院患者18人に対し、症例に応じてクロザピンやm-ECTなどを行うとともに、院内多職種(必要時、地域関係者を含む)による治療体制を構築して治療に当たり、5人を退院させることができた。なお、北病院におけるクロザピンの治療は人口10万人あたり全国上位の登録患者数があるとともに、副作用モニタリングシステムを全国へ提案するなど、先進的な取り組みを実施している。 重度・慢性入院患者の新たな発生を減少させるため、積極的にクロザピンやm-ECT治療を実施した。 長期患者退院推進会議を毎月開催し、重症患者に対する退院と社会復帰を計画的に進めた。 <p>高度な精神科医療の状況 (単位:回・人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">m-ECT</td> <td>実施回数</td> <td>657</td> <td>617</td> <td>650</td> <td>661</td> <td>653</td> <td>796</td> <td>(21.9%増)</td> </tr> <tr> <td>新規開始患者数</td> <td>74</td> <td>67</td> <td>70</td> <td>76</td> <td>66</td> <td>86</td> <td>(30.3%増)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">クロザピン</td> <td>使用者数</td> <td>87</td> <td>95</td> <td>102</td> <td>118</td> <td>134</td> <td>146</td> <td>(9.0%増)</td> </tr> <tr> <td>投与継続者数</td> <td>48</td> <td>58</td> <td>57</td> <td>68</td> <td>70</td> <td>72</td> <td>(2.9%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※m-ECT:修正型電気けいれん療法 クロザピン:治療抵抗性統合失調症の治療薬</p>	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている						H27	H28	H29	H30	R1	R2		m-ECT	実施回数	657	617	650	661	653	796	(21.9%増)	新規開始患者数	74	67	70	76	66	86	(30.3%増)	クロザピン	使用者数	87	95	102	118	134	146	(9.0%増)	投与継続者数	48	58	57	68	70	72	(2.9%増)													
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																														
		H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																									
m-ECT	実施回数	657	617	650	661	653	796	(21.9%増)																																																								
	新規開始患者数	74	67	70	76	66	86	(30.3%増)																																																								
クロザピン	使用者数	87	95	102	118	134	146	(9.0%増)																																																								
	投与継続者数	48	58	57	68	70	72	(2.9%増)																																																								

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																					
<p>オ 重症通院患者への医療 措置入院や指定入院などから退院し、地域で生活する重症患者に対して、関係機関と連携し、多職種治療チームによるデイケアなどの通院治療や訪問看護ステーションなどによる包括的な医療を提供し、地域社会への適応を促進する。</p>	<p>オ 重症通院患者への医療 措置入院や指定入院などから退院し、地域で生活する重症患者に対して、関係機関と連携し、多職種治療チームによるデイケアなどの通院治療や訪問看護ステーションなどによる包括的な医療を提供し、地域社会への適応を促進する。</p>	<p>(12)重症通院患者への医療</p> <table border="1" data-bbox="1507 226 2792 310"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 医療の中断、自傷・他害行為等のリスクが高く、入退院を繰り返してきた重症通院患者に対し、多職種治療チーム(MDT)による適切な医療の提供や地域での生活を支援するため、平成28年4月に重症通院患者支援推進会議を設置し、病状の経過観察、治療方針検討のサポート等を行っている。 平成28年7月に発生した津久井やまゆり園での殺傷事件を受け、措置入院患者の措置解除の決定等を行う場合には、当該推進会議において協議を行うこととした。また、平成30年4月の診療報酬改定で、措置入院者への入院中及び退院後6ヶ月間の通院時への対応(措置入院者退院後支援事業)について加算が算定できるようになり、患者の治療、援助全体を統括していく場として当該推進会議の重要性がより増加した。 令和2年度は、重症通院患者18人に対し、訪問(6人)109回、デイケア(3人)131回を実施するとともに、2人には多職種治療チーム(MDT)を編成し、また10人には地域関係者を含むカンファレンスを行い、治療に当たった。 <table border="1" data-bbox="1528 716 2801 982"> <caption>重症通院患者への医療(実績)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症通院患者数(人) (登録患者数)</td> <td>25</td> <td>31</td> <td>36</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>訪問回数(回)</td> <td>427</td> <td>390</td> <td>395</td> <td>204</td> <td>158</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>うち訪問対象者数/1人あたり実施回数</td> <td>25人/17回</td> <td>25人/16回</td> <td>25人/16回</td> <td>18人/11回</td> <td>14人/11回</td> <td>6人/18回</td> </tr> <tr> <td>デイケア延数(回)</td> <td>622</td> <td>444</td> <td>499</td> <td>402</td> <td>217</td> <td>131</td> </tr> <tr> <td>うちデイケア対象者数/1人あたり実施回数</td> <td>9人/69回</td> <td>10人/44回</td> <td>9人/55回</td> <td>6人/67回</td> <td>6人/36回</td> <td>3人/44回</td> </tr> <tr> <td>MDTチーム数</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>カンファレンス対象者数(人)</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年4月に、退院後、地域で生活する重症通院患者の多様かつ増大する医療ニーズに対して継続的に支援を行うため、訪問看護ステーションを開設した。令和2年度は前年度と比べて9.9%減の延べ2,724人への訪問を実施した。 <table border="1" data-bbox="1528 1115 2228 1199"> <caption>訪問看護実績件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>3,122</td> <td>2,810</td> <td>3,024</td> <td>2,724 (9.9%減)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> デイケアにおいては、患者の特性に合わせ、多様化・高度化した新たな治療プログラムによるサービスを開始した。前年度と比べて、デイケア利用修了者は16.5%増の113人であり、うち就労、就学者が7.1P減の37.2%であった。 令和2年1月より「成人発達障害疾患別専門プログラム」を導入し、令和2年度は3クール実施し、11名が参加した。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2	重症通院患者数(人) (登録患者数)	25	31	36	24	26	18	訪問回数(回)	427	390	395	204	158	109	うち訪問対象者数/1人あたり実施回数	25人/17回	25人/16回	25人/16回	18人/11回	14人/11回	6人/18回	デイケア延数(回)	622	444	499	402	217	131	うちデイケア対象者数/1人あたり実施回数	9人/69回	10人/44回	9人/55回	6人/67回	6人/36回	3人/44回	MDTチーム数	14	10	8	7	7	2	カンファレンス対象者数(人)	14	13	14	11	9	10		H29	H30	R1	R2	訪問看護件数	3,122	2,810	3,024	2,724 (9.9%減)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																					
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																	
重症通院患者数(人) (登録患者数)	25	31	36	24	26	18																																																																	
訪問回数(回)	427	390	395	204	158	109																																																																	
うち訪問対象者数/1人あたり実施回数	25人/17回	25人/16回	25人/16回	18人/11回	14人/11回	6人/18回																																																																	
デイケア延数(回)	622	444	499	402	217	131																																																																	
うちデイケア対象者数/1人あたり実施回数	9人/69回	10人/44回	9人/55回	6人/67回	6人/36回	3人/44回																																																																	
MDTチーム数	14	10	8	7	7	2																																																																	
カンファレンス対象者数(人)	14	13	14	11	9	10																																																																	
	H29	H30	R1	R2																																																																			
訪問看護件数	3,122	2,810	3,024	2,724 (9.9%減)																																																																			
<p>カ 依存症患者への医療 専門的な治療を行うとともに関係機関との連携を強化しながら、依存対象に応じた医療を提供する体制を強化し、社会復帰の促進を図る。</p>	<p>カ 依存症患者への医療 アルコール依存症への治療プログラムを継続するとともに、ゲーム依存症について専門的な治療体制の構築を行う。また、関係機関との連携を強化しながら、依存対象に応じた医療を提供する体制を強化し、社会復帰の促進を図る。</p>	<p>(13)依存症患者への医療</p> <table border="1" data-bbox="1507 1417 2792 1501"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年3月22日付で、山梨県から「アルコール健康障害に係る専門医療機関」に選定されるとともに、令和2年3月25日付で、山梨県から「依存症治療拠点機関(アルコール健康障害)」として、選定された。アルコール依存症患者数は、前年度と同じ176人であった。 令和元年5月、ゲーム依存症が世界保健機関(WHO)国際疾病分類に「ゲーム障害」として認定されたことを受けて、令和2年度から、ゲーム依存症患者専用のプログラムを開始した。また入院を必要としない患者に対しては、デイケアにおいて「ゲーム依存プログラム」を提供している。 <table border="1" data-bbox="1528 1780 2258 1940"> <caption>依存症治療患者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルコール依存症患者</td> <td>176</td> <td>176</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>うち専門プログラム参加者数(延べ数)</td> <td>1,407</td> <td>739</td> <td>(47.5%減)</td> </tr> <tr> <td>ゲーム依存症患者</td> <td>83</td> <td>108</td> <td>(30.1%増)</td> </tr> <tr> <td>うち専門プログラム参加者数(延べ数)</td> <td>-</td> <td>50</td> <td>(皆増)</td> </tr> </tbody> </table>	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		R1	R2		アルコール依存症患者	176	176	(増減なし)	うち専門プログラム参加者数(延べ数)	1,407	739	(47.5%減)	ゲーム依存症患者	83	108	(30.1%増)	うち専門プログラム参加者数(延べ数)	-	50	(皆増)																																														
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																					
	R1	R2																																																																					
アルコール依存症患者	176	176	(増減なし)																																																																				
うち専門プログラム参加者数(延べ数)	1,407	739	(47.5%減)																																																																				
ゲーム依存症患者	83	108	(30.1%増)																																																																				
うち専門プログラム参加者数(延べ数)	-	50	(皆増)																																																																				

中期計画

キ 認知症患者への医療

認知症疾患医療センターとして、病態に応じた治療、相談への対応及び地域の医療機関への紹介等を行うとともに、山梨県及び関係機関と連携することにより患者が地域において継続して生活できるための支援を行う。

年度計画

キ 認知症患者への医療

認知症疾患医療センターとして、病態に応じた治療、相談への対応及び地域の医療機関への紹介等を行うとともに、山梨県及び関係機関と連携することにより患者が地域において継続して生活できるための支援を行う。

業務実績及び法人の自己評価

(14)認知症患者への医療

評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている
----	---	---------------------------

- 平成21年度より認知症疾患医療センターとして、認知症疾患に関する診断と処遇についての相談を行っており、受入患者数は前年度と比べて15.8%増の1,002人であった。

	H30	R1	R2	
認知症患者数	592	865	1,002	(15.8%増)
関係機関からの紹介数	160	175	162	(7.4%減)

- 認知症疾患に係る臨床心理士、精神保健福祉士、看護師による専門医療相談窓口を設け、患者本人、その家族、保健所、福祉関係者等からの電話または面談相談を行った。

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
患者本人	84	298	322	296	305	310	(1.6%増)
保健所・福祉関係者等	124	185	276	223	211	303	(43.6%増)

- 令和2年度は、研修会、連携協議会を各1回開催した。

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
研修会	2	2	2	2	2	1	(50%減)
連携協議会	2	2	2	2	2	1	(50%減)

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 医療の提供
 (3) 県民に信頼される医療の提供

中期目標
 1 医療の提供
 (3) 県民に信頼される医療の提供
 県民及び患者の視点に立ち、県民の健康と生命を守る本県の基幹病院として、信頼される医療を提供すること。
 特に、患者の権利に最大限配慮し、患者サービスの向上に努めるとともに、医療安全・院内感染対策、医療倫理の確立及び医薬品の適正管理に努めること。

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																															
<p>(3) 県民に信頼される医療の提供 医療の専門化・高度化が進む中で、医療安全・感染症対策を徹底するとともに、患者・家族の理解を得るために、疾病や診療に関する十分な説明を行うなど、県民に信頼される医療の提供に努める。</p> <p>① 医療安全・感染症対策の推進 ア リスクマネージャーの活用 専従のリスクマネージャーを配置した医療安全管理室の機能を活かして、医療安全に関する情報の収集や分析を行うとともに、各部門のリスク管理責任者への研修など医療安全教育を徹底する。</p>	<p>(3) 県民に信頼される医療の提供</p> <p>① 医療安全対策の推進 ア リスクマネージャーの活用 ・ 専従のリスクマネージャーを配置した医療安全管理室の機能を活かして、医療安全に関する情報の収集や分析を行うとともに、各部門のリスク管理責任者への研修など医療安全教育を徹底する。 ・ 職員に対する医療安全教育の一層の向上を図るため、チームワーク向上を目的とした研修会の開催など、新たな研修を実施する。</p>	<p>(18) 医療安全・感染症対策の推進</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 10%;">S</th> <th style="width: 80%;">当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</th> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理室において、週1回の医療安全管理対策委員会の開催、月1回の医療安全委員会等の開催、週1回程度の医療安全現場指導を実施した。また、平成31年度から、医療安全管理室に専従の看護師を2名増員し、医療安全の更なる強化を図っている。 ・ 医療安全管理対策委員会などで、インシデントレベルの高いレポート、レベルが高くなる可能性のあるレポート、連続して起きているインシデント等を検討・分析し、対応している。 【主な実施内容】 (中央病院)・患者誤認防止のための入院時ネームバンド装着 ・医療事故該当性チェックシート再周知・提出状況確認・集計開始 (北病院)・自殺予防のため、全入院患者への自殺リスクアセスメントを実施し、リスクが高い患者には、医師、看護師、精神保健福祉士等の多職種による支援を行った。 ・院内暴力防止のため、病院組織として、暴力を許さない姿勢をHPや院内掲示等で示した。 ・誤投薬防止のため、新規採用薬の説明会や医師、看護師、精神保健福祉士での処方に関する検討を行った。 ・ 中央病院では、平成28年度から、院内救急対応として、救急科と認定看護師、医師が共同し、心肺蘇生法(BLS)教育を実施している。また、平成30年度からは、すべてのメディカルや事務職員に対してもBLS研修を実施している。 ・ 中央病院では、全部署のラウンドに加え、平成29年度に発生した異型輸血医療事故及び薬剤紛失事案を受け、関係するマニュアルの見直しを行うとともに、事故発生後関連部署へのラウンド回数を増やし再発防止対策の実践状況確認・評価を適宜行った。また、関連部署については、2箇月に一度、異型輸血医療事故防止のためのシミュレーションを医師、看護師で行った。 医療安全現場指導の状況 (単位: 件) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> <tr> <td>指導回数</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>45</td> <td>60</td> <td>48</td> <td>61</td> <td>(27.1%増)</td> </tr> </table> <small>※医療安全対策委員会メンバーによる現場指導</small> ・ 新型コロナウイルスの影響下においても、全職員が必ず年に2回医療安全研修会へ参加できるよう、いつでも参加できるe-learningによる研修とした結果、中央病院の参加率は大幅に増加した。 医療安全研修会の開催状況 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> <tr> <td>中央病院</td> <td>8回+DVD 1,941人参加</td> <td>13回 2,572人参加</td> <td>14回 2,366人参加</td> <td>18回+DVD 2,851人参加</td> <td>15回+DVD +e-learning 2,256人参加</td> <td>13回+DVD +e-learning 3,699人参加</td> <td>(64.0%増)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>4回+DVD 380人参加</td> <td>5回+DVD 267人参加</td> <td>5回+DVD 416人参加</td> <td>7回+DVD 884人参加</td> <td>14回+DVD 958人参加</td> <td>3回 308人参加</td> <td>(67.8%減)</td> </tr> </table> 医療安全研修会への参加状況 (単位: 人) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> <tr> <td rowspan="3">中央病院</td> <td>対象職員</td> <td>991</td> <td>1,102</td> <td>1,126</td> <td>1,163</td> <td>1,159</td> <td>1,252 (8.0%増)</td> </tr> <tr> <td>参加職員</td> <td>797</td> <td>912</td> <td>932</td> <td>1,117</td> <td>1,117</td> <td>1,249 (11.8%増)</td> </tr> <tr> <td>参加率</td> <td>80.4%</td> <td>82.8%</td> <td>82.8%</td> <td>96.0%</td> <td>96.4%</td> <td>99.8% (3.4P増)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">北病院</td> <td>対象職員</td> <td>203</td> <td>208</td> <td>206</td> <td>203</td> <td>200</td> <td>200 (増減なし)</td> </tr> <tr> <td>参加職員</td> <td>202</td> <td>208</td> <td>206</td> <td>203</td> <td>198</td> <td>168 (15.2%減)</td> </tr> <tr> <td>参加率</td> <td>99.5%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>99.0%</td> <td>84.0% (15.0P減)</td> </tr> </table> 	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2		指導回数	41	40	45	60	48	61	(27.1%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	8回+DVD 1,941人参加	13回 2,572人参加	14回 2,366人参加	18回+DVD 2,851人参加	15回+DVD +e-learning 2,256人参加	13回+DVD +e-learning 3,699人参加	(64.0%増)	北病院	4回+DVD 380人参加	5回+DVD 267人参加	5回+DVD 416人参加	7回+DVD 884人参加	14回+DVD 958人参加	3回 308人参加	(67.8%減)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	対象職員	991	1,102	1,126	1,163	1,159	1,252 (8.0%増)	参加職員	797	912	932	1,117	1,117	1,249 (11.8%増)	参加率	80.4%	82.8%	82.8%	96.0%	96.4%	99.8% (3.4P増)	北病院	対象職員	203	208	206	203	200	200 (増減なし)	参加職員	202	208	206	203	198	168 (15.2%減)	参加率	99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	84.0% (15.0P減)
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																																																															
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																											
指導回数	41	40	45	60	48	61	(27.1%増)																																																																																										
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																											
中央病院	8回+DVD 1,941人参加	13回 2,572人参加	14回 2,366人参加	18回+DVD 2,851人参加	15回+DVD +e-learning 2,256人参加	13回+DVD +e-learning 3,699人参加	(64.0%増)																																																																																										
北病院	4回+DVD 380人参加	5回+DVD 267人参加	5回+DVD 416人参加	7回+DVD 884人参加	14回+DVD 958人参加	3回 308人参加	(67.8%減)																																																																																										
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																											
中央病院	対象職員	991	1,102	1,126	1,163	1,159	1,252 (8.0%増)																																																																																										
	参加職員	797	912	932	1,117	1,117	1,249 (11.8%増)																																																																																										
	参加率	80.4%	82.8%	82.8%	96.0%	96.4%	99.8% (3.4P増)																																																																																										
北病院	対象職員	203	208	206	203	200	200 (増減なし)																																																																																										
	参加職員	202	208	206	203	198	168 (15.2%減)																																																																																										
	参加率	99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	84.0% (15.0P減)																																																																																										

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																														
		<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、院内全体で”誤投薬ゼロ”、”転倒転落ゼロ”、に向けて取り組み、各部署で発生したインシデントレベル2以上の誤投薬及びインシデントレベル1以上の転倒転落の推移を毎月グラフ化し、病院会議や看護実践委員会等を通じて共有した。この結果、誤投薬に係るインシデントレベル3の件数は、前年度と比べて5件減の8件(38.5%減)と大きく改善した。 <table border="1" data-bbox="1537 321 2154 520"> <caption>レベル3以上のインシデント・アクシデント件数 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>誤投薬</td> <td>32</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>(38.5%減)</td> </tr> <tr> <td>転倒・転落</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>23</td> <td>(17.9%減)</td> </tr> <tr> <td>ドレーン・チューブ</td> <td>92</td> <td>66</td> <td>63</td> <td>(0.5%減)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>69</td> <td>44</td> <td>33</td> <td>(25.0%減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>218</td> <td>151</td> <td>127</td> <td>(15.9%減)</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2		誤投薬	32	13	8	(38.5%減)	転倒・転落	25	28	23	(17.9%減)	ドレーン・チューブ	92	66	63	(0.5%減)	その他	69	44	33	(25.0%減)	合計	218	151	127	(15.9%減)
	H30	R1	R2																													
誤投薬	32	13	8	(38.5%減)																												
転倒・転落	25	28	23	(17.9%減)																												
ドレーン・チューブ	92	66	63	(0.5%減)																												
その他	69	44	33	(25.0%減)																												
合計	218	151	127	(15.9%減)																												
<p>イ 院内感染への対策</p> <p>院内に設置された感染症対策の部門及び委員会が連携して院内感染の防止に取り組むとともに、職員の感染防止対策のため、ワクチンの接種等を行う。</p>	<p>イ 院内感染への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内に設置された感染症対策の部門及び委員会が連携して院内感染の防止に取り組むとともに、職員の感染防止対策のため、ワクチンの接種等を行う。 感染対策に関する職員の意識の醸成を図るため、体験型の研修会や全職員に対する「感染対策チェックテスト」等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中央病院では、職員の感染防止対策として、新規採用者に対してB型肝炎とウイルス4抗体の抗体検査を行い、令和2年度は、新規採用者120人に対して実施した。また、必要に応じてワクチンの接種を推奨し、延べ338人に対して接種を行った。北病院では、全職員を対象に、B型肝炎とウイルス4抗体の抗体検査及び結核感染診断のためのT-SPOT検査を実施し、データベース化した。 中央病院では、インフルエンザが院内に勤務する職員に蔓延した際、病院運営に影響が生じることから、委託事務員を含む院内の全職員を対象とした予防接種を実施している。なお、費用については、職員が自ら院内感染源となることを防ぐ観点などから、病院職員については、全額を病院負担、委託業者の職員については、一般の半額程度で実施した。 <table border="1" data-bbox="1537 863 2510 982"> <caption>インフルエンザ予防接種の状況 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院職員</td> <td>1,042</td> <td>1,050</td> <td>1,056</td> <td>1,142</td> <td>1,205</td> <td>1,301</td> <td>(8.0%増)</td> </tr> <tr> <td>委託業者職員</td> <td>134</td> <td>111</td> <td>-</td> <td>139</td> <td>139</td> <td>210</td> <td>(51.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H29年度は、インフルエンザワクチン不足のため、委託業者については他病院での接種を要請した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院では、10月15日をはさむ1週間を病院の医療安全週間と定め、過去の医療事故を風化させないための取り組みを行っている。令和2年度は、期間中に3回の研修会を実施した。 入院患者の感染症罹患状況・接触歴等の確認、針刺し等事故に対する職員の感染管理を目的とした感染管理システムについて、電子カルテ更新後の令和3年5月の導入に向けて、導入委託契約を締結した。 新型コロナウイルスの影響下においても、全職員が必ず年に2回医療安全研修へ参加できるよう、いつでも参加できるe-learningによる研修とした結果、参加率は大幅に増加した。(前述P25)また、医療安全研修及び感染管理研修については、講義を聴講し、テストに合格することによって、研修1回参加とした。 		H27	H28	H29	H30	R1	R2		病院職員	1,042	1,050	1,056	1,142	1,205	1,301	(8.0%増)	委託業者職員	134	111	-	139	139	210	(51.1%増)						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																										
病院職員	1,042	1,050	1,056	1,142	1,205	1,301	(8.0%増)																									
委託業者職員	134	111	-	139	139	210	(51.1%増)																									

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																								
		<p>【新型コロナウイルス感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスに係る院内感染防止のため、令和2年4月に新規採用職員130名及び異動職員に対し、PCR検査を実施し全員の陰性を確認するとともに、5月に職員の抗体検査を1,307件実施し、12月にも職員の抗体検査を1,234件実施し、いずれも院内感染がないことを確認した。 令和2年4月から入院予定患者の入院前PCR検査を実施し、緊急入院の患者については、PCR検査の結果が判明するまでは必ず個室に入院させることとした。令和2年度の検査数は、6,339件であった。 令和2年4月から外来手術処置患者の手術前PCR検査を実施した。令和2年度の検査数は、1,615件であった。 令和2年7月に委託業者9社269人に対して、抗体検査を実施し、その後も業者来院の際にPCR検査等を実施した。 令和2年8月から付き添い家族へのPCR検査を開始した。令和2年度の検査数は、155件であった。 院内感染防止及び福利厚生の一環として、令和2年8月から11月の間、希望する職員162人に対して、休暇前後の新型コロナウイルスのPCR検査、抗体検査を実施した。 令和2年11月に当院職員5名の感染が確認された際に、職員、職員家族、患者、外部業者に対して、PCR検査605件、抗原定量248件、フィルムアレイ35件を実施し、全員の陰性を確認した。 令和2年3月から全部署の換気確認を開始した。また11月より、二酸化炭素の計測器による換気の見える化に着手した。 令和2年4月から3密巡視を開始し、3密を避けるため、患者待合席及び病棟デイルームの椅子を整理した。 令和2年4月から職員全員が毎日体温測定を行い、発熱状況を見える化した体温モニタリングを実施した。 令和2年5月から7月の間、職員の3密を避けるため、ローテーション勤務を実施した。 令和2年5月に飛沫感染防止のため事務室や会計窓口等にアクリル板を設置した。 令和2年5月から入院患者全員のマスク着用を推進した結果、新生児・乳幼児を除く入院患者のマスク着用率は、ほぼ100%となった。 令和2年5月から来院者すべての正面玄関入口における体温測定を徹底し、発熱者はコロナストップ・発熱外来にてコロナ感染症の有無をチェックする体制を構築した。 令和2年5月から面会基準を見直し、主治医の許可があり体調に問題がない人に制限した。また、11月からは面会は原則禁止とし、主治医の許可があり体調に問題がない人であっても1日1人10分以内とした。 令和2年7月に、新型コロナウイルスの院内感染を想定した対応訓練を実施し、59名(院内56名、保健所等3名)が参加した。また、対応訓練で確認された課題に対する訓練を令和2年9月に実施し、53名が参加した。更に、11月に新型コロナウイルスに係る職員陽性者発生時の振り返りを実施し、61名が参加した。(前述P14) 新型コロナウイルス対策のため、Web会議システム利用要綱を作成し、ZoomによるWeb会議の環境を整備した。 																																								
<p>ウ 情報の共有化 チーム医療を推進する中で、より確かな医療安全対策を講じるため、医療従事者間における医療関係情報の共有化を図る。</p>	<p>ウ 情報の共有化 ・ チーム医療を推進する中で、より確かな医療安全対策を講じるため、医療従事者間における医療関係情報の共有化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ジェネラルセーフティーマネージャーが、インシデントレポートを集計・分析し、医療安全委員会、病院会議、院内連絡会議等へ報告し、必要に応じ院内インフォメーションで周知した。 <table border="1" data-bbox="1543 1669 2374 1879"> <thead> <tr> <th colspan="8">インシデントレポートの状況</th> </tr> <tr> <th>中央病院</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small></td> <td>2,769件 (1件)</td> <td>2,994件 (3件)</td> <td>3,101件 (0件)</td> <td>3,230件 (2件)</td> <td>3,205件 (0件)</td> <td>3,093件 (0件)</td> <td>(3.5%減) 皆減</td> </tr> <tr> <th>北病院</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> <tr> <td>インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small></td> <td>1,356件 (2件)</td> <td>1,491件 (1件)</td> <td>1,581件 (35件)</td> <td>1,337件 (27件)</td> <td>1,091件 (15件)</td> <td>1,110 (21件)</td> <td>(1.7%増) (40.0%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>*H29年度より生命危険に係るインシデントの対象者が外来歴、入院歴のある者が死亡した場合、カウントするとされたことにより、大幅に増加した。</small></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から、医師、看護師、コメディカルを対象としたセーフティーマネージャー会議を毎月1回(奇数月:医師、偶数月:看護師・コメディカル)開催している。 	インシデントレポートの状況								中央病院	H27	H28	H29	H30	R1	R2		インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small>	2,769件 (1件)	2,994件 (3件)	3,101件 (0件)	3,230件 (2件)	3,205件 (0件)	3,093件 (0件)	(3.5%減) 皆減	北病院	H27	H28	H29	H30	R1	R2		インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small>	1,356件 (2件)	1,491件 (1件)	1,581件 (35件)	1,337件 (27件)	1,091件 (15件)	1,110 (21件)	(1.7%増) (40.0%増)
インシデントレポートの状況																																										
中央病院	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																				
インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small>	2,769件 (1件)	2,994件 (3件)	3,101件 (0件)	3,230件 (2件)	3,205件 (0件)	3,093件 (0件)	(3.5%減) 皆減																																			
北病院	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																				
インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small>	1,356件 (2件)	1,491件 (1件)	1,581件 (35件)	1,337件 (27件)	1,091件 (15件)	1,110 (21件)	(1.7%増) (40.0%増)																																			

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																											
<p>エ 医療事故発生時の対応 医療事故発生時には、事故調査委員会を設置し、速やかに関係法令及び医療安全対策マニュアルに基づいた適切な対応を行う。</p>	<p>エ 医療事故発生時の対応 ・ 医療事故発生時には、事故調査委員会を設置し、速やかに関係法令及び医療安全対策マニュアルに基づいた適切な対応を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年6月29日に発生した輸血医療事故について、県立中央病院輸血医療事故調査委員会からの提言を受け、再発防止策をとりまとめホームページで公表している。 異型輸血医療事故の再発防止策として、全職員への周知のために5月、9月に研修会を開催し、輸血に関する知識、管理方法の周知を図った。 令和2年度に医療安全対策医療スタッフマニュアル(携帯版)を改定し、新たに摂食嚥下や与薬原則、麻薬の取扱いフロー等を掲載した。 医療過誤に伴う診療費免除を検討すべき事象(コストフリー)の取扱いを整理し、関係機関の連携を強化した。 令和2年度は、院内全体で”誤投薬ゼロ”、”転倒転落ゼロ”、に向けて取り組み、各部署で発生したインシデントレベル2以上の誤投薬及びインシデントレベル1以上の転倒転落の推移を毎月グラフ化し、病院会議や看護実践委員会等を通じて共有した。この結果、誤投薬に係るインシデントレベル3の件数は、前年度と比べて5件減の8件(38.5%減)と大きく改善した。(前述P26) 																																											
<p>② 医療倫理の確立 患者の権利を尊重する医療倫理を確立するため、新たな高度医療の導入に当たっては、倫理委員会で審査を行う。 また、倫理的な課題を共有し、医療倫理に対する意識を向上するため、職員を対象とした倫理研修会を実施する。</p>	<p>②医療倫理の確立 患者の権利を尊重する医療倫理を確立するため、新たな高度医療の導入に当たっては、倫理委員会で審査を行う。 また、倫理的な課題を共有し、医療倫理に対する意識を向上するため、職員を対象とした倫理研修会を実施する。</p>	<p>(19)医療倫理の確立</p> <table border="1" data-bbox="1507 709 2792 793"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 倫理委員会で、院内で行われる医療行為及び医学の研究に関し、倫理的、社会的観点から審査を行った。 倫理委員会の審査状況 (単位:件) <table border="1" data-bbox="1528 877 2380 972"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>25</td> <td>21</td> <td>24</td> <td>20</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>(69.2%減)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>16</td> <td>29</td> <td>23</td> <td>31</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>(16.7%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ヒトを対象とする医学系研究及びヒトゲノム・遺伝子解析研究を審査するため、「臨床研究・ゲノム研究倫理審査委員会」を開催した。 令和2年度は、職員を対象とした倫理研修会は実施しなかった。 	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	25	21	24	20	13	4	(69.2%減)	北病院	16	29	23	31	6	7	(16.7%増)																
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																											
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																							
中央病院	25	21	24	20	13	4	(69.2%減)																																						
北病院	16	29	23	31	6	7	(16.7%増)																																						
<p>③患者・家族との信頼・協力関係の構築 疾病の特性・医療行為の内容と効果及び副作用・リスクに関する十分な説明と同意に基づき、最適な医療を提供する。 また、医療行為等に関し、患者との見解の相違などが生じた場合には、担当医師等を中心として、真摯にかつ適切な対応を図る。</p>	<p>③患者・家族との信頼・協力関係の構築 疾病の特性・医療行為の内容と効果及び副作用・リスクに関する十分な説明と同意に基づき、最適な医療を提供する。 また、医療行為等に関し、患者との見解の相違などが生じた場合には、担当医師等を中心として、真摯にかつ適切な対応を図る。</p>	<p>(20)患者・家族との信頼・協力関係の構築</p> <table border="1" data-bbox="1507 1192 2792 1276"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院では、最適な医療を提供するため、インフォームド・コンセントに関する基準、ガイドラインを策定した。また、倫理委員会の傘下に「インフォームド・コンセント部会」を設置し、インフォームド・コンセントを適切に実施するための様々な取り組みについて議論した。 医師と患者との間に見解の相違などが生じた場合には、医療相談や接遇の研修を受講した職員が、病院側と患者側の間に立ち、円満な解決に向かうよう対応している。 新型コロナウイルスの影響のため原則面会禁止としたが、患者・家族の不安軽減のためオンライン面会を導入したところ、令和2年度は35回(71名)の利用があった。 中央病院の患者支援センターにおいて、患者相談の受け付けや、退院調整のための巡回相談を担当看護師と連携して行うなど、患者や家族に対して安心できるサポートを行っている。退院支援件数は、前年度と比べて3.1%増の4,354人となった。 <table border="1" data-bbox="1558 1696 2279 1822"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院支援数(実人員)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>転院</td> <td>1,401</td> <td>1,691</td> <td>2,743</td> <td>2,347</td> <td>1,592</td> <td>1,612</td> <td>(1.3%増)</td> </tr> <tr> <td>在宅</td> <td>2,207</td> <td>1,915</td> <td>2,463</td> <td>2,463</td> <td>2,630</td> <td>2,742</td> <td>(4.3%増)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,608</td> <td>3,606</td> <td>5,206</td> <td>4,810</td> <td>4,222</td> <td>4,354</td> <td>(3.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 入退院センターにおいて、令和元年度より全診療科を対象に入院などの説明をワンストップで行っている。 平成31年1月から、患者さんやその家族が医療及び福祉に関する相談を安心して行うことができ、その相談に対する適切なサポートを行うため、患者相談窓口を1階ロビーに開設している。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2		退院支援数(実人員)								転院	1,401	1,691	2,743	2,347	1,592	1,612	(1.3%増)	在宅	2,207	1,915	2,463	2,463	2,630	2,742	(4.3%増)	計	3,608	3,606	5,206	4,810	4,222	4,354	(3.1%増)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																											
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																							
退院支援数(実人員)																																													
転院	1,401	1,691	2,743	2,347	1,592	1,612	(1.3%増)																																						
在宅	2,207	1,915	2,463	2,463	2,630	2,742	(4.3%増)																																						
計	3,608	3,606	5,206	4,810	4,222	4,354	(3.1%増)																																						

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																					
<p>④ 医薬品の安心、安全な提供</p> <p>医薬品の処方、投薬の安全性等の確保や適正管理に努めるとともに、患者の持参薬管理、服薬指導を更に推進し、薬剤管理指導回数の増加に努める。</p> <p>県立中央病院においては、薬剤師を含めた専門性を活かしたチーム医療の推進に努める。また、退院後も適切な薬物療法が継続できるよう、患者への説明・指導に努める。</p>	<p>④ 医薬品の安心、安全な提供</p> <p>中央病院の病棟への薬剤師の配置を推進し、病棟薬剤業務の拡充を図るとともに、医薬品の処方、投薬の安全性等の確保に努め、患者への服薬指導をさらに推進する。また、薬剤管理のより一層の強化を図る。</p>	<p>(21) 医薬品の安心、安全な提供</p> <table border="1" data-bbox="1507 226 2789 310"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <p>【実績(定量的な業績指標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬剤業務の充実を図るため、病棟薬剤師を増員しており、薬剤師の数はH22と比較して2.8倍の45人となった。 <table border="1" data-bbox="1507 415 2478 493"> <caption>中央病院薬剤師の職員数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師数</td> <td>33</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>(増減なし)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 患者とのコミュニケーションを図りながら、処方薬の薬効や服薬方法等についてわかりやすく説明し、患者が納得して服薬できるように服薬指導を実施している。服薬指導回数は、前年度と比べて6.8%減の9,447件となった。 また、退院後も安心して薬剤が服用できるよう、退院に際して患者又はその家族に必要な指導を行っている。 <table border="1" data-bbox="1507 609 2329 703"> <caption>服薬指導の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>3,554</td> <td>3,671</td> <td>4,229</td> <td>6,151</td> <td>8,160</td> <td>7,545</td> <td>(7.5%減)</td> </tr> <tr> <td>指導回数(件)</td> <td>4,088</td> <td>4,129</td> <td>4,894</td> <td>7,394</td> <td>10,141</td> <td>9,447</td> <td>(6.8%減)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1507 724 2329 808"> <caption>退院指導の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指導回数(件)</td> <td>38</td> <td>102</td> <td>428</td> <td>754</td> <td>720</td> <td>923</td> <td>(28.2%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 持参薬管理の患者数は、前年度と比べて7.1%減の11,051人、鑑別件数は2.6%減の60,278件となった。 <table border="1" data-bbox="1507 850 2418 997"> <caption>病棟薬剤師の配置及び持参薬管理の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病棟数</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>5,162</td> <td>8,460</td> <td>11,497</td> <td>11,837</td> <td>11,892</td> <td>11,051</td> <td>(7.1%減)</td> </tr> <tr> <td>鑑別件数(件)</td> <td>29,116</td> <td>45,183</td> <td>57,119</td> <td>60,441</td> <td>61,870</td> <td>60,278</td> <td>(2.6%減)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 通院加療がんセンターで治療を行う患者に、治療薬の内容や副作用などの説明を実施した。説明者数は、前年度と比べて10.4%増の1,066人、説明回数は10.7%増の1,216件となった。 <table border="1" data-bbox="1507 1081 2478 1207"> <caption>通院加療がんセンターでの治療薬の説明状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>334</td> <td>354</td> <td>838</td> <td>935</td> <td>966</td> <td>1,066</td> <td>(10.4%増)</td> </tr> <tr> <td>説明回数(件)</td> <td>360</td> <td>383</td> <td>958</td> <td>1,081</td> <td>1,098</td> <td>1,216</td> <td>(10.7%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※通院加療がんセンターは、H25.1月開所</p> <p>【実績(その他の取組状況)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院では持参薬の確認や投薬・注射状況を把握し、適正使用を推進するため、病棟薬剤業務の充実を図り、令和元年度から、精神身体合併症病棟を含む全17病棟に専任薬剤師を配置している。病棟薬剤師は、病棟薬剤業務以外にも入院服薬指導や退院時に入院中に使用した薬とその薬に係る副作用発現状況などをお薬手帳に記載し、退院後も安全に薬物療法ができるように指導を行った。 平成29年7月に中央病院で発生した薬剤紛失事案について、県に提出した改善計画を継続して実行することにより、薬剤管理の一層の強化と再発防止に取り組んでいる。また、令和2年度から、薬剤部の出入口は原則常時施錠とし、開錠はインターホンにて、薬剤師が行うこととした。 (主な改善策) 第3種向精神薬の管理方法の強化(施錠管理)、すべての向精神薬について購入量・処方数量・在庫数量を月毎に照合、監視カメラ設置、インターホン増設、ドアアラーム装置設置、各種マニュアルの改訂、職員に対する研修会の実施(棚卸、防犯対策)、パスボックスの設置 誤投薬に係るインシデントレベル3の件数は、前年度と比べて5件減の8件(38.5%減)であり、大きく改善した。(前述P26) チーム医療を推進するため、病棟看護師を対象とした薬剤師主体のミニ勉強会を23回開催した。 令和3年2月から、県からの依頼により、基本型接種施設として医療従事者等向け新型コロナウイルスワクチンの管理・分配を行った。 北病院においては、全ての向精神薬を鍵の掛かる引き出しやシャッター式の薬品棚への保管(施錠管理)、監視カメラの設置により薬剤管理の強化を継続して行っている。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		薬剤師数	33	38	42	44	45	45	45	(増減なし)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		患者数(人)	3,554	3,671	4,229	6,151	8,160	7,545	(7.5%減)	指導回数(件)	4,088	4,129	4,894	7,394	10,141	9,447	(6.8%減)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		指導回数(件)	38	102	428	754	720	923	(28.2%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		病棟数	11	16	16	16	17	17	(増減なし)	患者数(人)	5,162	8,460	11,497	11,837	11,892	11,051	(7.1%減)	鑑別件数(件)	29,116	45,183	57,119	60,441	61,870	60,278	(2.6%減)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		患者数(人)	334	354	838	935	966	1,066	(10.4%増)	説明回数(件)	360	383	958	1,081	1,098	1,216	(10.7%増)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																																																					
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																																																																																																																
薬剤師数	33	38	42	44	45	45	45	(増減なし)																																																																																																															
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																	
患者数(人)	3,554	3,671	4,229	6,151	8,160	7,545	(7.5%減)																																																																																																																
指導回数(件)	4,088	4,129	4,894	7,394	10,141	9,447	(6.8%減)																																																																																																																
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																	
指導回数(件)	38	102	428	754	720	923	(28.2%増)																																																																																																																
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																	
病棟数	11	16	16	16	17	17	(増減なし)																																																																																																																
患者数(人)	5,162	8,460	11,497	11,837	11,892	11,051	(7.1%減)																																																																																																																
鑑別件数(件)	29,116	45,183	57,119	60,441	61,870	60,278	(2.6%減)																																																																																																																
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																	
患者数(人)	334	354	838	935	966	1,066	(10.4%増)																																																																																																																
説明回数(件)	360	383	958	1,081	1,098	1,216	(10.7%増)																																																																																																																

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																																																																																																																																																			
<p>⑤患者サービスの向上</p> <p>外来患者の待ち時間や患者の満足度の調査を毎年定期的に実施し、実態の把握に努めるとともに、診療の予約や受付から精算までを円滑に行う体制の整備、職員への接遇研修などにより、患者サービスの向上に努める。</p> <p>また常設している意見箱に寄せられる患者からの意見・苦情に対し、速やかに改善に取り組む。</p>	<p>⑤患者サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療の予約、受付から精算までを円滑に行うため、電話予約、駐車場管理、受付業務、会計・精算事務の見直しを適宜行うなど、スムーズな受診体制を整備するとともに、職員への接遇研修などにより、患者サービスの向上に努める。 患者満足度調査を実施し、県立病院機構に対する患者の評価の把握に努めるとともに、満足度の低い項目については改善策を講じていく。 全診療科に拡大した入退院センターのワンストップサービスの一層の充実を図る。 病院利用者に快適な環境を提供するため、院内環境の整備に努める。 院内に常設している意見箱に寄せられる患者からの意見・苦情に対し、速やかに改善に取り組む。 	<p>(22)患者サービスの向上</p> <table border="1" data-bbox="1507 226 2792 317"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年1月から、患者さんやその家族が医療及び福祉に関する相談を安心して行うことができ、その相談に対する適切なサポートを行うため、患者相談窓口を1階ロビーに開設している。(前述P28) 電話予約センターへの繋がり難さを解消するため、令和3年5月から窓口を1名増員し、7名体制とした。 来院者がスムーズに駐車できるよう駐車場を2か所(68台分)増設し、令和2年4月から供用開始した。 来院時の患者サービスの向上を目的として、看護師、事務職員が総合案内に立ち、医療相談や患者への診察案内を行っている。また、平成31年4月からは看護師長経験者3名を「医療コンシェルジュ」に任命し、これまで以上にきめ細やかな医療相談や患者への診察案内を行う体制を整備している。 令和2年9月～10月に、外来患者、入院患者を対象とした患者満足度調査を実施した。また、令和元年度患者満足度調査で評価の低かった給食については、委託事業者と協議し材料費のアップを図って、改善に努めた。 <table border="1" data-bbox="1567 772 2386 947"> <caption>外来患者の接遇に関する満足度</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師態度</td> <td>4.4</td> <td>4.4</td> <td>4.42</td> <td>4.27</td> <td>4.3</td> <td>4.31</td> <td>(0.01P増)</td> </tr> <tr> <td>看護師態度</td> <td>4.33</td> <td>4.35</td> <td>4.31</td> <td>4.23</td> <td>4.23</td> <td>4.27</td> <td>(0.04P増)</td> </tr> <tr> <td>その他医療従事者態度</td> <td>4.28</td> <td>4.33</td> <td>4.22</td> <td>4.04</td> <td>4.12</td> <td>4.16</td> <td>(0.04P増)</td> </tr> <tr> <td>受付・窓口態度</td> <td>4.17</td> <td>4.13</td> <td>4.02</td> <td>3.86</td> <td>3.86</td> <td>3.94</td> <td>(0.08P増)</td> </tr> <tr> <td>会計窓口態度</td> <td>4.22</td> <td>4.13</td> <td>4.02</td> <td>3.86</td> <td>3.86</td> <td>3.94</td> <td>(0.08P増)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1567 968 2386 1066"> <caption>入院患者の満足度</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>接遇に対する満足度</td> <td>4.62</td> <td>4.59</td> <td>4.58</td> <td>4.47</td> <td>4.58</td> <td>4.65</td> <td>(0.07P増)</td> </tr> <tr> <td>今後の期待度</td> <td>4.45</td> <td>4.21</td> <td>4.32</td> <td>4.35</td> <td>4.36</td> <td>4.38</td> <td>(0.02P増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>非常に満足：5 満足：4 どちらでもない：3 不満：2 非常に不満：1 設問項目に5段階で回答いただき、点数を平均化した</p> <ul style="list-style-type: none"> 入退院センターにおいて、令和元年度より全診療科を対象に入院などの説明をワンストップで行っている。(前述P28) <table border="1" data-bbox="1567 1209 2338 1822"> <caption>入退院センターでの説明状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>14,112</td> <td>14,035</td> <td>14,225</td> <td>13,937</td> <td>12,981</td> <td>(6.9%減)</td> </tr> <tr> <td>入院センター説明数</td> <td>2,253</td> <td>3,630</td> <td>3,897</td> <td>6,776</td> <td>6,913</td> <td>(2.0%増)</td> </tr> <tr> <td>内科</td> <td>1,419</td> <td>2,140</td> <td>2,106</td> <td>2,052</td> <td>1,828</td> <td>(10.9%減)</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>834</td> <td>1,234</td> <td>1,198</td> <td>1,020</td> <td>1,062</td> <td>(4.1%増)</td> </tr> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>-</td> <td>256</td> <td>593</td> <td>624</td> <td>564</td> <td>(9.6%減)</td> </tr> <tr> <td>呼吸器外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>239</td> <td>182</td> <td>(23.8%減)</td> </tr> <tr> <td>眼科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>789</td> <td>694</td> <td>(12.0%減)</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>290</td> <td>493</td> <td>(70.0%増)</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>504</td> <td>595</td> <td>(18.1%増)</td> </tr> <tr> <td>耳鼻咽喉科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>258</td> <td>243</td> <td>(5.8%減)</td> </tr> <tr> <td>心臓血管外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>269</td> <td>316</td> <td>(17.4%増)</td> </tr> <tr> <td>脳血管外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>36</td> <td>52</td> <td>(44.4%増)</td> </tr> <tr> <td>形成外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>119</td> <td>129</td> <td>(8.4%増)</td> </tr> <tr> <td>皮膚科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>(8.0%増)</td> </tr> <tr> <td>口腔外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>104</td> <td>144</td> <td>(38.5%増)</td> </tr> <tr> <td>産科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>274</td> <td>355</td> <td>(29.6%増)</td> </tr> <tr> <td>救急科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>13</td> <td>22</td> <td>(69.2%増)</td> </tr> <tr> <td>総合診療科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>(50.0%増)</td> </tr> <tr> <td>小児外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>120</td> <td>139</td> <td>(15.8%増)</td> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>30</td> <td>51</td> <td>(70.0%増)</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>(皆増)</td> </tr> <tr> <td>麻酔科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>入院センター説明率</td> <td>16.0%</td> <td>25.9%</td> <td>27.4%</td> <td>48.6%</td> <td>53.3%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月に、1階外来トイレの改修工事を行い、各和式便器を洋式便器へ交換した。また、2階女子トイレにオムツ替えシートを設置した。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2		医師態度	4.4	4.4	4.42	4.27	4.3	4.31	(0.01P増)	看護師態度	4.33	4.35	4.31	4.23	4.23	4.27	(0.04P増)	その他医療従事者態度	4.28	4.33	4.22	4.04	4.12	4.16	(0.04P増)	受付・窓口態度	4.17	4.13	4.02	3.86	3.86	3.94	(0.08P増)	会計窓口態度	4.22	4.13	4.02	3.86	3.86	3.94	(0.08P増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		接遇に対する満足度	4.62	4.59	4.58	4.47	4.58	4.65	(0.07P増)	今後の期待度	4.45	4.21	4.32	4.35	4.36	4.38	(0.02P増)		H28	H29	H30	R1	R2		入院患者数	14,112	14,035	14,225	13,937	12,981	(6.9%減)	入院センター説明数	2,253	3,630	3,897	6,776	6,913	(2.0%増)	内科	1,419	2,140	2,106	2,052	1,828	(10.9%減)	外科	834	1,234	1,198	1,020	1,062	(4.1%増)	泌尿器科	-	256	593	624	564	(9.6%減)	呼吸器外科	-	-	-	239	182	(23.8%減)	眼科	-	-	-	789	694	(12.0%減)	整形外科	-	-	-	290	493	(70.0%増)	婦人科	-	-	-	504	595	(18.1%増)	耳鼻咽喉科	-	-	-	258	243	(5.8%減)	心臓血管外科	-	-	-	269	316	(17.4%増)	脳血管外科	-	-	-	36	52	(44.4%増)	形成外科	-	-	-	119	129	(8.4%増)	皮膚科	-	-	-	25	27	(8.0%増)	口腔外科	-	-	-	104	144	(38.5%増)	産科	-	-	-	274	355	(29.6%増)	救急科	-	-	-	13	22	(69.2%増)	総合診療科	-	-	-	10	15	(50.0%増)	小児外科	-	-	-	120	139	(15.8%増)	小児科	-	-	-	30	51	(70.0%増)	緩和ケア科	-	-	-	-	2	(皆増)	麻酔科	-	-	-	-	0	(増減なし)	入院センター説明率	16.0%	25.9%	27.4%	48.6%	53.3%	
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																																																																																																																																																																																			
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																																																																																																																															
医師態度	4.4	4.4	4.42	4.27	4.3	4.31	(0.01P増)																																																																																																																																																																																																																																														
看護師態度	4.33	4.35	4.31	4.23	4.23	4.27	(0.04P増)																																																																																																																																																																																																																																														
その他医療従事者態度	4.28	4.33	4.22	4.04	4.12	4.16	(0.04P増)																																																																																																																																																																																																																																														
受付・窓口態度	4.17	4.13	4.02	3.86	3.86	3.94	(0.08P増)																																																																																																																																																																																																																																														
会計窓口態度	4.22	4.13	4.02	3.86	3.86	3.94	(0.08P増)																																																																																																																																																																																																																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																																																																																																																															
接遇に対する満足度	4.62	4.59	4.58	4.47	4.58	4.65	(0.07P増)																																																																																																																																																																																																																																														
今後の期待度	4.45	4.21	4.32	4.35	4.36	4.38	(0.02P増)																																																																																																																																																																																																																																														
	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																																																																																																																																
入院患者数	14,112	14,035	14,225	13,937	12,981	(6.9%減)																																																																																																																																																																																																																																															
入院センター説明数	2,253	3,630	3,897	6,776	6,913	(2.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
内科	1,419	2,140	2,106	2,052	1,828	(10.9%減)																																																																																																																																																																																																																																															
外科	834	1,234	1,198	1,020	1,062	(4.1%増)																																																																																																																																																																																																																																															
泌尿器科	-	256	593	624	564	(9.6%減)																																																																																																																																																																																																																																															
呼吸器外科	-	-	-	239	182	(23.8%減)																																																																																																																																																																																																																																															
眼科	-	-	-	789	694	(12.0%減)																																																																																																																																																																																																																																															
整形外科	-	-	-	290	493	(70.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
婦人科	-	-	-	504	595	(18.1%増)																																																																																																																																																																																																																																															
耳鼻咽喉科	-	-	-	258	243	(5.8%減)																																																																																																																																																																																																																																															
心臓血管外科	-	-	-	269	316	(17.4%増)																																																																																																																																																																																																																																															
脳血管外科	-	-	-	36	52	(44.4%増)																																																																																																																																																																																																																																															
形成外科	-	-	-	119	129	(8.4%増)																																																																																																																																																																																																																																															
皮膚科	-	-	-	25	27	(8.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
口腔外科	-	-	-	104	144	(38.5%増)																																																																																																																																																																																																																																															
産科	-	-	-	274	355	(29.6%増)																																																																																																																																																																																																																																															
救急科	-	-	-	13	22	(69.2%増)																																																																																																																																																																																																																																															
総合診療科	-	-	-	10	15	(50.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
小児外科	-	-	-	120	139	(15.8%増)																																																																																																																																																																																																																																															
小児科	-	-	-	30	51	(70.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
緩和ケア科	-	-	-	-	2	(皆増)																																																																																																																																																																																																																																															
麻酔科	-	-	-	-	0	(増減なし)																																																																																																																																																																																																																																															
入院センター説明率	16.0%	25.9%	27.4%	48.6%	53.3%																																																																																																																																																																																																																																																

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																														
		<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の「患者さんの声」は194件で、うち感謝が33件、改善・要望が79件、苦情が82件であり、特に新型コロナウイルスに係る声が多かった。寄せられた意見のうち、体温測定については、病院出入口を制限し、全ての来院者の体温を確認する体制を整備した。また、院内における携帯電話の通信障害については、アンテナの増強工事を実施し、解消に努めた。 外国人患者に対して、宗教上の食事制限があったことから、できる限りの配慮を行った。 外国人患者に対して、多言語で新型コロナウイルスの感染防止上必要な情報を提供するため、デジタルサイネージ(電子看板)を設置した。(前述P14) 外国人患者に対する医療通訳について、山梨県立大学を中心とした、やまなし医療通訳研究会に社会福祉士が参加するとともに、令和2年度は3人の患者に対して7回の医療通訳を行った。 通院加療がんセンターの待ち時間短縮のため、ベッド数を6床増床し38床にするとともに、患者サービス向上のためリクライニングチェアを11脚購入した。(前述P10) <p>【北病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北病院では、新型コロナウイルス対策として病院出入口の一方所への制限と、全ての来院者の体温確認の徹底、及び患者さんからの要望によるロビーや待合スペースでの密接状態を避けられる工夫などにより、来院者の感染予防と感染への不安軽減に努めた。 																																														
<p>⑥診療情報の適切な管理</p> <p>電子カルテに係る運用規程の遵守など患者の診療情報を厳格に管理するとともに、関係法令・指針に基づき、患者・家族に対する診療情報の開示を速やかに実施する。</p>	<p>⑥診療情報の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテに係る運用規程の遵守など患者の診療情報を厳格に管理するとともに、関係法令・指針に基づき、患者・家族に対する診療情報の開示を速やかに実施する。また、文書管理システムを活用し、診療に関する資料の効率的な管理を行う。 医師、看護師、薬剤師など職員誰もが、より簡易で安定的に診療情報を記録、管理できる環境を整備するため、中央病院では医療情報システム(電子カルテシステム等)の更新を確実に実施する。 	<p>(23)診療情報の適切な管理</p> <table border="1" data-bbox="1507 1045 2792 1136"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>A</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 紙カルテは、電気錠により入室が制限されているカルテ庫において適切に保管した。紙カルテのうち入院カルテについては、カルテ庫内の施錠できる部屋に保管しているが、外来カルテについても、施錠できるパーテーションを設置し、より厳重に管理した。また、紙カルテ貸し出しの際は、診療情報管理担当が所在管理を行うとともに、電子カルテについては、診療記録管理要綱に基づき適切に運用した。 カルテの記載方法について、中央病院では診療記録委員会、北病院では医療情報システム管理委員会が中心となって適切な記載方法を院内に周知した。また、カルテ開示については、運用規程等に基づき、適切に実施した。 <table border="1" data-bbox="1537 1381 2407 1503"> <caption>カルテ開示件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>67</td> <td>45</td> <td>66</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>61</td> <td>(6.2%減)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>(111.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年7月に、診療記録の整備を促進し医療の質向上を図るため、診療記録委員会の中に診療記録監査部会を設置した。令和2年度は、無作為に抽出した36例について、カルテの記載内容について監査を実施した。 文書管理システムを平成28年6月に導入し、紹介状等の紙文書を電子化することにより、電子カルテで文書の確認ができるようになるなど、医療情報の効率的な管理、利用が可能となるとともに、大部分の紙文書をペーパーレス化したため、紙文書の運搬、保管等の業務の大幅な効率化を図ることができた。 中央病院の医療情報システム(電子カルテシステム)については、令和2年12月の更新を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、令和3年5月に更新を完了した。 退院サマリーの作成状況は、前年度から0.5P増の98.6%であった。 <table border="1" data-bbox="1555 1850 2496 1940"> <caption>退院サマリー作成状況(退院後14日以内の作成率)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>93.1%</td> <td>93.9%</td> <td>92.4%</td> <td>93.8%</td> <td>98.1%</td> <td>98.6%</td> <td>(0.5P増)</td> </tr> </tbody> </table>	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている					H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	67	45	66	67	65	61	(6.2%減)	北病院	10	10	8	9	9	19	(111.1%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	93.1%	93.9%	92.4%	93.8%	98.1%	98.6%	(0.5P増)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																										
中央病院	67	45	66	67	65	61	(6.2%減)																																									
北病院	10	10	8	9	9	19	(111.1%増)																																									
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																										
中央病院	93.1%	93.9%	92.4%	93.8%	98.1%	98.6%	(0.5P増)																																									

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 医療の提供
 (3) 県民に信頼される医療の提供

中期目標
 1 医療の提供
 (3) 県民に信頼される医療の提供
 県民及び患者の視点に立ち、県民の健康と生命を守る本県の基幹病院として、信頼される医療を提供すること。
 特に、患者の権利に最大限配慮し、患者サービスの向上に努めるとともに、医療安全・院内感染対策、医療倫理の確立及び医薬品の適正管理に努めること。

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																			
<p>(3) 県民に信頼される医療の提供 医療の専門化・高度化が進む中で、医療安全・感染症対策を徹底するとともに、患者・家族の理解を得るために、疾病や診療に関する十分な説明を行うなど、県民に信頼される医療の提供に努める。</p> <p>① 医療安全・感染症対策の推進 ア リスクマネージャーの活用 専従のリスクマネージャーを配置した医療安全管理室の機能を活かして、医療安全に関する情報の収集や分析を行うとともに、各部門のリスク管理責任者への研修など医療安全教育を徹底する。</p>	<p>(3) 県民に信頼される医療の提供</p> <p>① 医療安全対策の推進 ア リスクマネージャーの活用 ・ 専従のリスクマネージャーを配置した医療安全管理室の機能を活かして、医療安全に関する情報の収集や分析を行うとともに、各部門のリスク管理責任者への研修など医療安全教育を徹底する。 ・ 職員に対する医療安全教育の一層の向上を図るため、チームワーク向上を目的とした研修会の開催など、新たな研修を実施する。</p>	<p>(18) 医療安全・感染症対策の推進</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 10%;">S</th> <th style="width: 80%;">当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</th> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理室において、週1回の医療安全管理対策委員会の開催、月1回の医療安全委員会等の開催、週1回程度の医療安全現場指導を実施した。また、平成31年度から、医療安全管理室に専従の看護師を2名増員し、医療安全の更なる強化を図っている。 医療安全管理対策委員会などで、インシデントレベルの高いレポート、レベルが高くなる可能性のあるレポート、連続して起きているインシデント等を検討・分析し、対応している。 【主な実施内容】 (中央病院)・患者誤認防止のための入院時ネームバンド装着 ・医療事故該当性チェックシート再周知・提出状況確認・集計開始 (北病院)・自殺予防のため、全入院患者への自殺リスクアセスメントを実施し、リスクが高い患者には、医師、看護師、精神保健福祉士等の多職種による支援を行った。 ・院内暴力防止のため、病院組織として、暴力を許さない姿勢をHPや院内掲示等で示した。 ・誤投薬防止のため、新規採用薬の説明会や医師、看護師、精神保健福祉士での処方に関する検討を行った。 中央病院では、平成28年度から、院内救急対応として、救急科と認定看護師、医師が共同し、心肺蘇生法(BLS)教育を実施している。また、平成30年度からは、すべてのメディカルや事務職員に対してもBLS研修を実施している。 中央病院では、全部署のラウンドに加え、平成29年度に発生した異型輸血医療事故及び薬剤紛失事案を受け、関係するマニュアルの見直しを行うとともに、事故発生後関連部署へのラウンド回数を増やし再発防止対策の実践状況確認・評価を適宜行った。また、関連部署については、2箇月に一度、異型輸血医療事故防止のためのシミュレーションを医師、看護師で行った。 医療安全現場指導の状況 (単位: 件) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> <tr> <td>指導回数</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>45</td> <td>60</td> <td>48</td> <td>61</td> <td>(27.1%増)</td> </tr> </table> <small>※医療安全対策委員会メンバーによる現場指導</small> 新型コロナウイルスの影響下においても、全職員が必ず年に2回医療安全研修会へ参加できるよう、いつでも参加できるe-learningによる研修とした結果、中央病院の参加率は大幅に増加した。 医療安全研修会の開催状況 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> <tr> <td>中央病院</td> <td>8回+DVD 1,941人参加</td> <td>13回 2,572人参加</td> <td>14回 2,366人参加</td> <td>18回+DVD 2,851人参加</td> <td>15回+DVD +e-learning 2,256人参加</td> <td>13回+DVD +e-learning 3,699人参加</td> <td>(64.0%増)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>4回+DVD 380人参加</td> <td>5回+DVD 267人参加</td> <td>5回+DVD 416人参加</td> <td>7回+DVD 884人参加</td> <td>14回+DVD 958人参加</td> <td>3回 308人参加</td> <td>(67.8%減)</td> </tr> </table> 医療安全研修会への参加状況 (単位: 人) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> <tr> <td>中央病院</td> <td>対象職員 991</td> <td>1,102</td> <td>1,126</td> <td>1,163</td> <td>1,159</td> <td>1,252</td> <td>(8.0%増)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>参加職員 797</td> <td>912</td> <td>932</td> <td>1,117</td> <td>1,117</td> <td>1,249</td> <td>(11.8%増)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>参加率 80.4%</td> <td>82.8%</td> <td>82.8%</td> <td>96.0%</td> <td>96.4%</td> <td>99.8%</td> <td>(3.4P増)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>対象職員 203</td> <td>208</td> <td>206</td> <td>203</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>参加職員 202</td> <td>208</td> <td>206</td> <td>203</td> <td>198</td> <td>168</td> <td>(15.2%減)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>参加率 99.5%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>99.0%</td> <td>84.0%</td> <td>(15.0P減)</td> </tr> </table> 	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2		指導回数	41	40	45	60	48	61	(27.1%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	8回+DVD 1,941人参加	13回 2,572人参加	14回 2,366人参加	18回+DVD 2,851人参加	15回+DVD +e-learning 2,256人参加	13回+DVD +e-learning 3,699人参加	(64.0%増)	北病院	4回+DVD 380人参加	5回+DVD 267人参加	5回+DVD 416人参加	7回+DVD 884人参加	14回+DVD 958人参加	3回 308人参加	(67.8%減)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	対象職員 991	1,102	1,126	1,163	1,159	1,252	(8.0%増)		参加職員 797	912	932	1,117	1,117	1,249	(11.8%増)		参加率 80.4%	82.8%	82.8%	96.0%	96.4%	99.8%	(3.4P増)	北病院	対象職員 203	208	206	203	200	200	(増減なし)		参加職員 202	208	206	203	198	168	(15.2%減)		参加率 99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	84.0%	(15.0P減)
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																																																																			
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																															
指導回数	41	40	45	60	48	61	(27.1%増)																																																																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																															
中央病院	8回+DVD 1,941人参加	13回 2,572人参加	14回 2,366人参加	18回+DVD 2,851人参加	15回+DVD +e-learning 2,256人参加	13回+DVD +e-learning 3,699人参加	(64.0%増)																																																																																														
北病院	4回+DVD 380人参加	5回+DVD 267人参加	5回+DVD 416人参加	7回+DVD 884人参加	14回+DVD 958人参加	3回 308人参加	(67.8%減)																																																																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																															
中央病院	対象職員 991	1,102	1,126	1,163	1,159	1,252	(8.0%増)																																																																																														
	参加職員 797	912	932	1,117	1,117	1,249	(11.8%増)																																																																																														
	参加率 80.4%	82.8%	82.8%	96.0%	96.4%	99.8%	(3.4P増)																																																																																														
北病院	対象職員 203	208	206	203	200	200	(増減なし)																																																																																														
	参加職員 202	208	206	203	198	168	(15.2%減)																																																																																														
	参加率 99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	84.0%	(15.0P減)																																																																																														

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																														
		<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、院内全体で”誤投薬ゼロ”、”転倒転落ゼロ”、に向けて取り組み、各部署で発生したインシデントレベル2以上の誤投薬及びインシデントレベル1以上の転倒転落の推移を毎月グラフ化し、病院会議や看護実践委員会等を通じて共有した。この結果、誤投薬に係るインシデントレベル3の件数は、前年度と比べて5件減の8件(38.5%減)と大きく改善した。 <table border="1" data-bbox="1537 317 2154 516"> <caption>レベル3以上のインシデント・アクシデント件数 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>誤投薬</td> <td>32</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>(38.5%減)</td> </tr> <tr> <td>転倒・転落</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>23</td> <td>(17.9%減)</td> </tr> <tr> <td>ドレーン・チューブ</td> <td>92</td> <td>66</td> <td>63</td> <td>(0.5%減)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>69</td> <td>44</td> <td>33</td> <td>(25.0%減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>218</td> <td>151</td> <td>127</td> <td>(15.9%減)</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2		誤投薬	32	13	8	(38.5%減)	転倒・転落	25	28	23	(17.9%減)	ドレーン・チューブ	92	66	63	(0.5%減)	その他	69	44	33	(25.0%減)	合計	218	151	127	(15.9%減)
	H30	R1	R2																													
誤投薬	32	13	8	(38.5%減)																												
転倒・転落	25	28	23	(17.9%減)																												
ドレーン・チューブ	92	66	63	(0.5%減)																												
その他	69	44	33	(25.0%減)																												
合計	218	151	127	(15.9%減)																												
<p>イ 院内感染への対策</p> <p>院内に設置された感染症対策の部門及び委員会が連携して院内感染の防止に取り組むとともに、職員の感染防止対策のため、ワクチンの接種等を行う。</p>	<p>イ 院内感染への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内に設置された感染症対策の部門及び委員会が連携して院内感染の防止に取り組むとともに、職員の感染防止対策のため、ワクチンの接種等を行う。 感染対策に関する職員の意識の醸成を図るため、体験型の研修会や全職員に対する「感染対策チェックテスト」等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中央病院では、職員の感染防止対策として、新規採用者に対してB型肝炎とウイルス4抗体の抗体検査を行い、令和2年度は、新規採用者120人に対して実施した。また、必要に応じてワクチンの接種を推奨し、延べ338人に対して接種を行った。北病院では、全職員を対象に、B型肝炎とウイルス4抗体の抗体検査及び結核感染診断のためのT-SPOT検査を実施し、データベース化した。 中央病院では、インフルエンザが院内に勤務する職員に蔓延した際、病院運営に影響が生じることから、委託事務員を含む院内の全職員を対象とした予防接種を実施している。なお、費用については、職員が自ら院内感染源となることを防ぐ観点などから、病院職員については、全額を病院負担、委託業者の職員については、一般の半額程度で実施した。 <table border="1" data-bbox="1537 863 2510 978"> <caption>インフルエンザ予防接種の状況 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院職員</td> <td>1,042</td> <td>1,050</td> <td>1,056</td> <td>1,142</td> <td>1,205</td> <td>1,301</td> <td>(8.0%増)</td> </tr> <tr> <td>委託業者職員</td> <td>134</td> <td>111</td> <td>-</td> <td>139</td> <td>139</td> <td>210</td> <td>(51.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H29年度は、インフルエンザワクチン不足のため、委託業者については他病院での接種を要請した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院では、10月15日をはさむ1週間を病院の医療安全週間と定め、過去の医療事故を風化させないための取り組みを行っている。令和2年度は、期間中に3回の研修会を実施した。 入院患者の感染症罹患状況・接触歴等の確認、針刺し等事故に対する職員の感染管理を目的とした感染管理システムについて、電子カルテ更新後の令和3年5月の導入に向けて、導入委託契約を締結した。 新型コロナウイルスの影響下においても、全職員が必ず年に2回医療安全研修へ参加できるよう、いつでも参加できるe-learningによる研修とした結果、参加率は大幅に増加した。(前述P25)また、医療安全研修及び感染管理研修については、講義を聴講し、テストに合格することによって、研修1回参加とした。 		H27	H28	H29	H30	R1	R2		病院職員	1,042	1,050	1,056	1,142	1,205	1,301	(8.0%増)	委託業者職員	134	111	-	139	139	210	(51.1%増)						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																										
病院職員	1,042	1,050	1,056	1,142	1,205	1,301	(8.0%増)																									
委託業者職員	134	111	-	139	139	210	(51.1%増)																									

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																								
		<p>【新型コロナウイルス感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスに係る院内感染防止のため、令和2年4月に新規採用職員130名及び異動職員に対し、PCR検査を実施し全員の陰性を確認するとともに、5月に職員の抗体検査を1,307件実施し、12月にも職員の抗体検査を1,234件実施し、いずれも院内感染がないことを確認した。 令和2年4月から入院予定患者の入院前PCR検査を実施し、緊急入院の患者については、PCR検査の結果が判明するまでは必ず個室に入院させることとした。令和2年度の検査数は、6,339件であった。 令和2年4月から外来手術処置患者の手術前PCR検査を実施した。令和2年度の検査数は、1,615件であった。 令和2年7月に委託業者9社269人に対して、抗体検査を実施し、その後も業者来院の際にPCR検査等を実施した。 令和2年8月から付き添い家族へのPCR検査を開始した。令和2年度の検査数は、155件であった。 院内感染防止及び福利厚生の一環として、令和2年8月から11月の間、希望する職員162人に対して、休暇前後の新型コロナウイルスのPCR検査、抗体検査を実施した。 令和2年11月に当院職員5名の感染が確認された際に、職員、職員家族、患者、外部業者に対して、PCR検査605件、抗原定量248件、フィルムアレイ35件を実施し、全員の陰性を確認した。 令和2年3月から全部署の換気確認を開始した。また11月より、二酸化炭素の計測器による換気の見える化に着手した。 令和2年4月から3密巡視を開始し、3密を避けるため、患者待合席及び病棟デイルームの椅子を整理した。 令和2年4月から職員全員が毎日体温測定を行い、発熱状況を見える化した体温モニタリングを実施した。 令和2年5月から7月の間、職員の3密を避けるため、ローテーション勤務を実施した。 令和2年5月に飛沫感染防止のため事務室や会計窓口等にアクリル板を設置した。 令和2年5月から入院患者全員のマスク着用を推進した結果、新生児・乳幼児を除く入院患者のマスク着用率は、ほぼ100%となった。 令和2年5月から来院者すべての正面玄関入口における体温測定を徹底し、発熱者はコロナストップ・発熱外来にてコロナ感染症の有無をチェックする体制を構築した。 令和2年5月から面会基準を見直し、主治医の許可があり体調に問題がない人に制限した。また、11月からは面会は原則禁止とし、主治医の許可があり体調に問題がない人であっても1日1人10分以内とした。 令和2年7月に、新型コロナウイルスの院内感染を想定した対応訓練を実施し、59名（院内56名、保健所等3名）が参加した。また、対応訓練で確認された課題に対する訓練を令和2年9月に実施し、53名が参加した。更に、11月に新型コロナウイルスに係る職員陽性者発生時の振り返りを実施し、61名が参加した。（前述P14） 新型コロナウイルス対策のため、Web会議システム利用要綱を作成し、ZoomによるWeb会議の環境を整備した。 																																								
<p>ウ 情報の共有化 チーム医療を推進する中で、より確かな医療安全対策を講じるため、医療従事者間における医療関係情報の共有化を図る。</p>	<p>ウ 情報の共有化 ・ チーム医療を推進する中で、より確かな医療安全対策を講じるため、医療従事者間における医療関係情報の共有化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ジェネラルセーフティーマネージャーが、インシデントレポートを集計・分析し、医療安全委員会、病院会議、院内連絡会議等へ報告し、必要に応じ院内インフォメーションで周知した。 <table border="1" data-bbox="1543 1669 2374 1879"> <thead> <tr> <th colspan="8">インシデントレポートの状況</th> </tr> <tr> <th>中央病院</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small></td> <td>2,769件 (1件)</td> <td>2,994件 (3件)</td> <td>3,101件 (0件)</td> <td>3,230件 (2件)</td> <td>3,205件 (0件)</td> <td>3,093件 (0件)</td> <td>(3.5%減) 皆減</td> </tr> <tr> <th>北病院</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> <tr> <td>インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small></td> <td>1,356件 (2件)</td> <td>1,491件 (1件)</td> <td>1,581件 (35件)</td> <td>1,337件 (27件)</td> <td>1,091件 (15件)</td> <td>1,110 (21件)</td> <td>(1.7%増) (40.0%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>*H29年度より生命危険に係るインシデントの対象者が外来歴、入院歴のある者が死亡した場合、カウントするとされたことにより、大幅に増加した。</small></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から、医師、看護師、コメディカルを対象としたセーフティーマネージャー会議を毎月1回（奇数月：医師、偶数月：看護師・コメディカル）開催している。 	インシデントレポートの状況								中央病院	H27	H28	H29	H30	R1	R2		インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small>	2,769件 (1件)	2,994件 (3件)	3,101件 (0件)	3,230件 (2件)	3,205件 (0件)	3,093件 (0件)	(3.5%減) 皆減	北病院	H27	H28	H29	H30	R1	R2		インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small>	1,356件 (2件)	1,491件 (1件)	1,581件 (35件)	1,337件 (27件)	1,091件 (15件)	1,110 (21件)	(1.7%増) (40.0%増)
インシデントレポートの状況																																										
中央病院	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																				
インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small>	2,769件 (1件)	2,994件 (3件)	3,101件 (0件)	3,230件 (2件)	3,205件 (0件)	3,093件 (0件)	(3.5%減) 皆減																																			
北病院	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																				
インシデントレポート数 <small>(うち生命危険に関わるもの)</small>	1,356件 (2件)	1,491件 (1件)	1,581件 (35件)	1,337件 (27件)	1,091件 (15件)	1,110 (21件)	(1.7%増) (40.0%増)																																			

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																											
<p>エ 医療事故発生時の対応 医療事故発生時には、事故調査委員会を設置し、速やかに関係法令及び医療安全対策マニュアルに基づいた適切な対応を行う。</p>	<p>エ 医療事故発生時の対応 ・ 医療事故発生時には、事故調査委員会を設置し、速やかに関係法令及び医療安全対策マニュアルに基づいた適切な対応を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年6月29日に発生した輸血医療事故について、県立中央病院輸血医療事故調査委員会からの提言を受け、再発防止策をとりまとめホームページで公表している。 異型輸血医療事故の再発防止策として、全職員への周知のために5月、9月に研修会を開催し、輸血に関する知識、管理方法の周知を図った。 令和2年度に医療安全対策医療スタッフマニュアル(携帯版)を改定し、新たに摂食嚥下や与薬原則、麻薬の取扱いフロー等を掲載した。 医療過誤に伴う診療費免除を検討すべき事象(コストフリー)の取扱いを整理し、関係機関の連携を強化した。 令和2年度は、院内全体で”誤投薬ゼロ”、”転倒転落ゼロ”、に向けて取り組み、各部署で発生したインシデントレベル2以上の誤投薬及びインシデントレベル1以上の転倒転落の推移を毎月グラフ化し、病院会議や看護実践委員会等を通じて共有した。この結果、誤投薬に係るインシデントレベル3の件数は、前年度と比べて5件減の8件(38.5%減)と大きく改善した。(前述P26) 																																											
<p>② 医療倫理の確立 患者の権利を尊重する医療倫理を確立するため、新たな高度医療の導入に当たっては、倫理委員会で審査を行う。 また、倫理的な課題を共有し、医療倫理に対する意識を向上するため、職員を対象とした倫理研修会を実施する。</p>	<p>②医療倫理の確立 患者の権利を尊重する医療倫理を確立するため、新たな高度医療の導入に当たっては、倫理委員会で審査を行う。 また、倫理的な課題を共有し、医療倫理に対する意識を向上するため、職員を対象とした倫理研修会を実施する。</p>	<p>(19)医療倫理の確立</p> <table border="1" data-bbox="1507 709 2792 793"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 倫理委員会で、院内で行われる医療行為及び医学の研究に関し、倫理的、社会的観点から審査を行った。 倫理委員会の審査状況 (単位:件) <table border="1" data-bbox="1528 877 2380 972"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>25</td> <td>21</td> <td>24</td> <td>20</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>(69.2%減)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>16</td> <td>29</td> <td>23</td> <td>31</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>(16.7%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ヒトを対象とする医学系研究及びヒトゲノム・遺伝子解析研究を審査するため、「臨床研究・ゲノム研究倫理審査委員会」を開催した。 令和2年度は、職員を対象とした倫理研修会は実施しなかった。 	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	25	21	24	20	13	4	(69.2%減)	北病院	16	29	23	31	6	7	(16.7%増)																
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																											
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																							
中央病院	25	21	24	20	13	4	(69.2%減)																																						
北病院	16	29	23	31	6	7	(16.7%増)																																						
<p>③患者・家族との信頼・協力関係の構築 疾病の特性・医療行為の内容と効果及び副作用・リスクに関する十分な説明と同意に基づき、最適な医療を提供する。 また、医療行為等に関し、患者との見解の相違などが生じた場合には、担当医師等を中心として、真摯にかつ適切な対応を図る。</p>	<p>③患者・家族との信頼・協力関係の構築 疾病の特性・医療行為の内容と効果及び副作用・リスクに関する十分な説明と同意に基づき、最適な医療を提供する。 また、医療行為等に関し、患者との見解の相違などが生じた場合には、担当医師等を中心として、真摯にかつ適切な対応を図る。</p>	<p>(20)患者・家族との信頼・協力関係の構築</p> <table border="1" data-bbox="1507 1192 2792 1276"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院では、最適な医療を提供するため、インフォームド・コンセントに関する基準、ガイドラインを策定した。また、倫理委員会の傘下に「インフォームド・コンセント部会」を設置し、インフォームド・コンセントを適切に実施するための様々な取り組みについて議論した。 医師と患者との間に見解の相違などが生じた場合には、医療相談や接遇の研修を受講した職員が、病院側と患者側の間に立ち、円満な解決に向かうよう対応している。 新型コロナウイルスの影響のため原則面会禁止としたが、患者・家族の不安軽減のためオンライン面会を導入したところ、令和2年度は35回(71名)の利用があった。 中央病院の患者支援センターにおいて、患者相談の受け付けや、退院調整のための巡回相談を担当看護師と連携して行うなど、患者や家族に対して安心できるサポートを行っている。退院支援件数は、前年度と比べて3.1%増の4,354人となった。 <table border="1" data-bbox="1558 1696 2279 1822"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院支援数(実人員)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>転院</td> <td>1,401</td> <td>1,691</td> <td>2,743</td> <td>2,347</td> <td>1,592</td> <td>1,612</td> <td>(1.3%増)</td> </tr> <tr> <td>在宅</td> <td>2,207</td> <td>1,915</td> <td>2,463</td> <td>2,463</td> <td>2,630</td> <td>2,742</td> <td>(4.3%増)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,608</td> <td>3,606</td> <td>5,206</td> <td>4,810</td> <td>4,222</td> <td>4,354</td> <td>(3.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 入退院センターにおいて、令和元年度より全診療科を対象に入院などの説明をワンストップで行っている。 平成31年1月から、患者さんやその家族が医療及び福祉に関する相談を安心して行うことができ、その相談に対する適切なサポートを行うため、患者相談窓口を1階ロビーに開設している。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2		退院支援数(実人員)								転院	1,401	1,691	2,743	2,347	1,592	1,612	(1.3%増)	在宅	2,207	1,915	2,463	2,463	2,630	2,742	(4.3%増)	計	3,608	3,606	5,206	4,810	4,222	4,354	(3.1%増)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																											
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																							
退院支援数(実人員)																																													
転院	1,401	1,691	2,743	2,347	1,592	1,612	(1.3%増)																																						
在宅	2,207	1,915	2,463	2,463	2,630	2,742	(4.3%増)																																						
計	3,608	3,606	5,206	4,810	4,222	4,354	(3.1%増)																																						

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																					
<p>④ 医薬品の安心、安全な提供</p> <p>医薬品の処方、投薬の安全性等の確保や適正管理に努めるとともに、患者の持参薬管理、服薬指導を更に推進し、薬剤管理指導回数の増加に努める。</p> <p>県立中央病院においては、薬剤師を含めた専門性を活かしたチーム医療の推進に努める。また、退院後も適切な薬物療法が継続できるよう、患者への説明・指導に努める。</p>	<p>④ 医薬品の安心、安全な提供</p> <p>中央病院の病棟への薬剤師の配置を推進し、病棟薬剤業務の拡充を図るとともに、医薬品の処方、投薬の安全性等の確保に努め、患者への服薬指導をさらに推進する。また、薬剤管理のより一層の強化を図る。</p>	<p>(21) 医薬品の安心、安全な提供</p> <table border="1" data-bbox="1507 226 2789 310"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <p>【実績(定量的な業績指標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬剤業務の充実を図るため、病棟薬剤師を増員しており、薬剤師の数はH22と比較して2.8倍の45人となった。 <table border="1" data-bbox="1507 415 2478 493"> <caption>中央病院薬剤師の職員数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師数</td> <td>33</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>(増減なし)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 患者とのコミュニケーションを図りながら、処方薬の薬効や服薬方法等についてわかりやすく説明し、患者が納得して服薬できるように服薬指導を実施している。服薬指導回数は、前年度と比べて6.8%減の9,447件となった。 また、退院後も安心して薬剤が服用できるよう、退院に際して患者又はその家族に必要な指導を行っている。 <table border="1" data-bbox="1507 609 2329 703"> <caption>服薬指導の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>3,554</td> <td>3,671</td> <td>4,229</td> <td>6,151</td> <td>8,160</td> <td>7,545</td> <td>(7.5%減)</td> </tr> <tr> <td>指導回数(件)</td> <td>4,088</td> <td>4,129</td> <td>4,894</td> <td>7,394</td> <td>10,141</td> <td>9,447</td> <td>(6.8%減)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1507 724 2329 808"> <caption>退院指導の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指導回数(件)</td> <td>38</td> <td>102</td> <td>428</td> <td>754</td> <td>720</td> <td>923</td> <td>(28.2%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 持参薬管理の患者数は、前年度と比べて7.1%減の11,051人、鑑別件数は2.6%減の60,278件となった。 <table border="1" data-bbox="1507 850 2418 997"> <caption>病棟薬剤師の配置及び持参薬管理の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病棟数</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>5,162</td> <td>8,460</td> <td>11,497</td> <td>11,837</td> <td>11,892</td> <td>11,051</td> <td>(7.1%減)</td> </tr> <tr> <td>鑑別件数(件)</td> <td>29,116</td> <td>45,183</td> <td>57,119</td> <td>60,441</td> <td>61,870</td> <td>60,278</td> <td>(2.6%減)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 通院加療がんセンターで治療を行う患者に、治療薬の内容や副作用などの説明を実施した。説明者数は、前年度と比べて10.4%増の1,066人、説明回数は10.7%増の1,216件となった。 <table border="1" data-bbox="1507 1081 2478 1207"> <caption>通院加療がんセンターでの治療薬の説明状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>334</td> <td>354</td> <td>838</td> <td>935</td> <td>966</td> <td>1,066</td> <td>(10.4%増)</td> </tr> <tr> <td>説明回数(件)</td> <td>360</td> <td>383</td> <td>958</td> <td>1,081</td> <td>1,098</td> <td>1,216</td> <td>(10.7%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※通院加療がんセンターは、H25.1月開所</p> <p>【実績(その他の取組状況)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院では持参薬の確認や投薬・注射状況を把握し、適正使用を推進するため、病棟薬剤業務の充実を図り、令和元年度から、精神身体合併症病棟を含む全17病棟に専任薬剤師を配置している。病棟薬剤師は、病棟薬剤業務以外にも入院服薬指導や退院時に入院中に使用した薬とその薬に係る副作用発現状況などをお薬手帳に記載し、退院後も安全に薬物療法ができるように指導を行った。 平成29年7月に中央病院で発生した薬剤紛失事案について、県に提出した改善計画を継続して実行することにより、薬剤管理の一層の強化と再発防止に取り組んでいる。また、令和2年度から、薬剤部の出入口は原則常時施錠とし、開錠はインターホンにて、薬剤師が行うこととした。 (主な改善策) 第3種向精神薬の管理方法の強化(施錠管理)、すべての向精神薬について購入量・処方数量・在庫数量を月毎に照合、監視カメラ設置、インターホン増設、ドアアラーム装置設置、各種マニュアルの改訂、職員に対する研修会の実施(棚卸、防犯対策)、パスボックスの設置 誤投薬に係るインシデントレベル3の件数は、前年度と比べて5件減の8件(38.5%減)であり、大きく改善した。(前述P26) チーム医療を推進するため、病棟看護師を対象とした薬剤師主体のミニ勉強会を23回開催した。 令和3年2月から、県からの依頼により、基本型接種施設として医療従事者等向け新型コロナウイルスワクチンの管理・分配を行った。 北病院においては、全ての向精神薬を鍵の掛かる引き出しやシャッター式の薬品棚への保管(施錠管理)、監視カメラの設置により薬剤管理の強化を継続して行っている。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		薬剤師数	33	38	42	44	45	45	45	(増減なし)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		患者数(人)	3,554	3,671	4,229	6,151	8,160	7,545	(7.5%減)	指導回数(件)	4,088	4,129	4,894	7,394	10,141	9,447	(6.8%減)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		指導回数(件)	38	102	428	754	720	923	(28.2%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		病棟数	11	16	16	16	17	17	(増減なし)	患者数(人)	5,162	8,460	11,497	11,837	11,892	11,051	(7.1%減)	鑑別件数(件)	29,116	45,183	57,119	60,441	61,870	60,278	(2.6%減)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		患者数(人)	334	354	838	935	966	1,066	(10.4%増)	説明回数(件)	360	383	958	1,081	1,098	1,216	(10.7%増)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																																																					
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																																																																																																																
薬剤師数	33	38	42	44	45	45	45	(増減なし)																																																																																																															
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																	
患者数(人)	3,554	3,671	4,229	6,151	8,160	7,545	(7.5%減)																																																																																																																
指導回数(件)	4,088	4,129	4,894	7,394	10,141	9,447	(6.8%減)																																																																																																																
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																	
指導回数(件)	38	102	428	754	720	923	(28.2%増)																																																																																																																
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																	
病棟数	11	16	16	16	17	17	(増減なし)																																																																																																																
患者数(人)	5,162	8,460	11,497	11,837	11,892	11,051	(7.1%減)																																																																																																																
鑑別件数(件)	29,116	45,183	57,119	60,441	61,870	60,278	(2.6%減)																																																																																																																
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																	
患者数(人)	334	354	838	935	966	1,066	(10.4%増)																																																																																																																
説明回数(件)	360	383	958	1,081	1,098	1,216	(10.7%増)																																																																																																																

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																																																																																																																																																			
<p>⑤患者サービスの向上</p> <p>外来患者の待ち時間や患者の満足度の調査を毎年定期的に実施し、実態の把握に努めるとともに、診療の予約や受付から精算までを円滑に行う体制の整備、職員への接遇研修などにより、患者サービスの向上に努める。</p> <p>また常設している意見箱に寄せられる患者からの意見・苦情に対し、速やかに改善に取り組む。</p>	<p>⑤患者サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療の予約、受付から精算までを円滑に行うため、電話予約、駐車場管理、受付業務、会計・精算事務の見直しを適宜行うなど、スムーズな受診体制を整備するとともに、職員への接遇研修などにより、患者サービスの向上に努める。 患者満足度調査を実施し、県立病院機構に対する患者の評価の把握に努めるとともに、満足度の低い項目については改善策を講じていく。 全診療科に拡大した入退院センターのワンストップサービスの一層の充実を図る。 病院利用者に快適な環境を提供するため、院内環境の整備に努める。 院内に常設している意見箱に寄せられる患者からの意見・苦情に対し、速やかに改善に取り組む。 	<p>(22)患者サービスの向上</p> <table border="1" data-bbox="1507 226 2792 310"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年1月から、患者さんやその家族が医療及び福祉に関する相談を安心して行うことができ、その相談に対する適切なサポートを行うため、患者相談窓口を1階ロビーに開設している。(前述P28) 電話予約センターへの繋がり難さを解消するため、令和3年5月から窓口を1名増員し、7名体制とした。 来院者がスムーズに駐車できるよう駐車場を2か所(68台分)増設し、令和2年4月から供用開始した。 来院時の患者サービスの向上を目的として、看護師、事務職員が総合案内に立ち、医療相談や患者への診察案内を行っている。また、平成31年4月からは看護師長経験者3名を「医療コンシェルジュ」に任命し、これまで以上にきめ細やかな医療相談や患者への診察案内を行う体制を整備している。 令和2年9月～10月に、外来患者、入院患者を対象とした患者満足度調査を実施した。また、令和元年度患者満足度調査で評価の低かった給食については、委託事業者と協議し材料費のアップを図って、改善に努めた。 <table border="1" data-bbox="1567 772 2383 940"> <caption>外来患者の接遇に関する満足度</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師態度</td> <td>4.4</td> <td>4.4</td> <td>4.42</td> <td>4.27</td> <td>4.3</td> <td>4.31</td> <td>(0.01P増)</td> </tr> <tr> <td>看護師態度</td> <td>4.33</td> <td>4.35</td> <td>4.31</td> <td>4.23</td> <td>4.23</td> <td>4.27</td> <td>(0.04P増)</td> </tr> <tr> <td>その他医療従事者態度</td> <td>4.28</td> <td>4.33</td> <td>4.22</td> <td>4.04</td> <td>4.12</td> <td>4.16</td> <td>(0.04P増)</td> </tr> <tr> <td>受付・窓口態度</td> <td>4.17</td> <td>4.13</td> <td>4.02</td> <td>3.86</td> <td>3.86</td> <td>3.94</td> <td>(0.08P増)</td> </tr> <tr> <td>会計窓口態度</td> <td>4.22</td> <td>4.13</td> <td>4.02</td> <td>3.86</td> <td>3.86</td> <td>3.94</td> <td>(0.08P増)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1567 968 2383 1062"> <caption>入院患者の満足度</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>接遇に対する満足度</td> <td>4.62</td> <td>4.59</td> <td>4.58</td> <td>4.47</td> <td>4.58</td> <td>4.65</td> <td>(0.07P増)</td> </tr> <tr> <td>今後の期待度</td> <td>4.45</td> <td>4.21</td> <td>4.32</td> <td>4.35</td> <td>4.36</td> <td>4.38</td> <td>(0.02P増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>非常に満足：5 満足：4 どちらでもない：3 不満：2 非常に不満：1 設問項目に5段階で回答いただき、点数を平均化した</p> <ul style="list-style-type: none"> 入退院センターにおいて、令和元年度より全診療科を対象に入院などの説明をワンストップで行っている。(前述P28) <table border="1" data-bbox="1567 1209 2338 1822"> <caption>入退院センターでの説明状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>14,112</td> <td>14,035</td> <td>14,225</td> <td>13,937</td> <td>12,981</td> <td>(6.9%減)</td> </tr> <tr> <td>入院センター説明数</td> <td>2,253</td> <td>3,630</td> <td>3,897</td> <td>6,776</td> <td>6,913</td> <td>(2.0%増)</td> </tr> <tr> <td>内科</td> <td>1,419</td> <td>2,140</td> <td>2,106</td> <td>2,052</td> <td>1,828</td> <td>(10.9%減)</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>834</td> <td>1,234</td> <td>1,198</td> <td>1,020</td> <td>1,062</td> <td>(4.1%増)</td> </tr> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>-</td> <td>256</td> <td>593</td> <td>624</td> <td>564</td> <td>(9.6%減)</td> </tr> <tr> <td>呼吸器外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>239</td> <td>182</td> <td>(23.8%減)</td> </tr> <tr> <td>眼科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>789</td> <td>694</td> <td>(12.0%減)</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>290</td> <td>493</td> <td>(70.0%増)</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>504</td> <td>595</td> <td>(18.1%増)</td> </tr> <tr> <td>耳鼻咽喉科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>258</td> <td>243</td> <td>(5.8%減)</td> </tr> <tr> <td>心臓血管外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>269</td> <td>316</td> <td>(17.4%増)</td> </tr> <tr> <td>脳血管外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>36</td> <td>52</td> <td>(44.4%増)</td> </tr> <tr> <td>形成外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>119</td> <td>129</td> <td>(8.4%増)</td> </tr> <tr> <td>皮膚科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>(8.0%増)</td> </tr> <tr> <td>口腔外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>104</td> <td>144</td> <td>(38.5%増)</td> </tr> <tr> <td>産科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>274</td> <td>355</td> <td>(29.6%増)</td> </tr> <tr> <td>救急科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>13</td> <td>22</td> <td>(69.2%増)</td> </tr> <tr> <td>総合診療科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>(50.0%増)</td> </tr> <tr> <td>小児外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>120</td> <td>139</td> <td>(15.8%増)</td> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>30</td> <td>51</td> <td>(70.0%増)</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>(皆増)</td> </tr> <tr> <td>麻酔科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>入院センター説明率</td> <td>16.0%</td> <td>25.9%</td> <td>27.4%</td> <td>48.6%</td> <td>53.3%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月に、1階外来トイレの改修工事を行い、各和式便器を洋式便器へ交換した。また、2階女子トイレにオムツ替えシートを設置した。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2		医師態度	4.4	4.4	4.42	4.27	4.3	4.31	(0.01P増)	看護師態度	4.33	4.35	4.31	4.23	4.23	4.27	(0.04P増)	その他医療従事者態度	4.28	4.33	4.22	4.04	4.12	4.16	(0.04P増)	受付・窓口態度	4.17	4.13	4.02	3.86	3.86	3.94	(0.08P増)	会計窓口態度	4.22	4.13	4.02	3.86	3.86	3.94	(0.08P増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		接遇に対する満足度	4.62	4.59	4.58	4.47	4.58	4.65	(0.07P増)	今後の期待度	4.45	4.21	4.32	4.35	4.36	4.38	(0.02P増)		H28	H29	H30	R1	R2		入院患者数	14,112	14,035	14,225	13,937	12,981	(6.9%減)	入院センター説明数	2,253	3,630	3,897	6,776	6,913	(2.0%増)	内科	1,419	2,140	2,106	2,052	1,828	(10.9%減)	外科	834	1,234	1,198	1,020	1,062	(4.1%増)	泌尿器科	-	256	593	624	564	(9.6%減)	呼吸器外科	-	-	-	239	182	(23.8%減)	眼科	-	-	-	789	694	(12.0%減)	整形外科	-	-	-	290	493	(70.0%増)	婦人科	-	-	-	504	595	(18.1%増)	耳鼻咽喉科	-	-	-	258	243	(5.8%減)	心臓血管外科	-	-	-	269	316	(17.4%増)	脳血管外科	-	-	-	36	52	(44.4%増)	形成外科	-	-	-	119	129	(8.4%増)	皮膚科	-	-	-	25	27	(8.0%増)	口腔外科	-	-	-	104	144	(38.5%増)	産科	-	-	-	274	355	(29.6%増)	救急科	-	-	-	13	22	(69.2%増)	総合診療科	-	-	-	10	15	(50.0%増)	小児外科	-	-	-	120	139	(15.8%増)	小児科	-	-	-	30	51	(70.0%増)	緩和ケア科	-	-	-	-	2	(皆増)	麻酔科	-	-	-	-	0	(増減なし)	入院センター説明率	16.0%	25.9%	27.4%	48.6%	53.3%	
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																																																																																																																																																																																			
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																																																																																																																															
医師態度	4.4	4.4	4.42	4.27	4.3	4.31	(0.01P増)																																																																																																																																																																																																																																														
看護師態度	4.33	4.35	4.31	4.23	4.23	4.27	(0.04P増)																																																																																																																																																																																																																																														
その他医療従事者態度	4.28	4.33	4.22	4.04	4.12	4.16	(0.04P増)																																																																																																																																																																																																																																														
受付・窓口態度	4.17	4.13	4.02	3.86	3.86	3.94	(0.08P増)																																																																																																																																																																																																																																														
会計窓口態度	4.22	4.13	4.02	3.86	3.86	3.94	(0.08P増)																																																																																																																																																																																																																																														
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																																																																																																																															
接遇に対する満足度	4.62	4.59	4.58	4.47	4.58	4.65	(0.07P増)																																																																																																																																																																																																																																														
今後の期待度	4.45	4.21	4.32	4.35	4.36	4.38	(0.02P増)																																																																																																																																																																																																																																														
	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																																																																																																																																																																
入院患者数	14,112	14,035	14,225	13,937	12,981	(6.9%減)																																																																																																																																																																																																																																															
入院センター説明数	2,253	3,630	3,897	6,776	6,913	(2.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
内科	1,419	2,140	2,106	2,052	1,828	(10.9%減)																																																																																																																																																																																																																																															
外科	834	1,234	1,198	1,020	1,062	(4.1%増)																																																																																																																																																																																																																																															
泌尿器科	-	256	593	624	564	(9.6%減)																																																																																																																																																																																																																																															
呼吸器外科	-	-	-	239	182	(23.8%減)																																																																																																																																																																																																																																															
眼科	-	-	-	789	694	(12.0%減)																																																																																																																																																																																																																																															
整形外科	-	-	-	290	493	(70.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
婦人科	-	-	-	504	595	(18.1%増)																																																																																																																																																																																																																																															
耳鼻咽喉科	-	-	-	258	243	(5.8%減)																																																																																																																																																																																																																																															
心臓血管外科	-	-	-	269	316	(17.4%増)																																																																																																																																																																																																																																															
脳血管外科	-	-	-	36	52	(44.4%増)																																																																																																																																																																																																																																															
形成外科	-	-	-	119	129	(8.4%増)																																																																																																																																																																																																																																															
皮膚科	-	-	-	25	27	(8.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
口腔外科	-	-	-	104	144	(38.5%増)																																																																																																																																																																																																																																															
産科	-	-	-	274	355	(29.6%増)																																																																																																																																																																																																																																															
救急科	-	-	-	13	22	(69.2%増)																																																																																																																																																																																																																																															
総合診療科	-	-	-	10	15	(50.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
小児外科	-	-	-	120	139	(15.8%増)																																																																																																																																																																																																																																															
小児科	-	-	-	30	51	(70.0%増)																																																																																																																																																																																																																																															
緩和ケア科	-	-	-	-	2	(皆増)																																																																																																																																																																																																																																															
麻酔科	-	-	-	-	0	(増減なし)																																																																																																																																																																																																																																															
入院センター説明率	16.0%	25.9%	27.4%	48.6%	53.3%																																																																																																																																																																																																																																																

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																											
		<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の「患者さんの声」は194件で、うち感謝が33件、改善・要望が79件、苦情が82件であり、特に新型コロナウイルスに係る声が多かった。寄せられた意見のうち、体温測定については、病院出入口を制限し、全ての来院者の体温を確認する体制を整備した。また、院内における携帯電話の通信障害については、アンテナの増強工事を実施し、解消に努めた。 外国人患者に対して、宗教上の食事制限があったことから、できる限りの配慮を行った。 外国人患者に対して、多言語で新型コロナウイルスの感染防止上必要な情報を提供するため、デジタルサイネージ(電子看板)を設置した。(前述P14) 外国人患者に対する医療通訳について、山梨県立大学を中心とした、やまなし医療通訳研究会に社会福祉士が参加するとともに、令和2年度は3人の患者に対して7回の医療通訳を行った。 通院加療がんセンターの待ち時間短縮のため、ベッド数を6床増床し38床にするとともに、患者サービス向上のためリクライニングチェアを11脚購入した。(前述P10) <p>【北病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北病院では、新型コロナウイルス対策として病院出入口の一方所への制限と、全ての来院者の体温確認の徹底、及び患者さんからの要望によるロビーや待合スペースでの密接状態を避けられる工夫などにより、来院者の感染予防と感染への不安軽減に努めた。 																																											
<p>⑥診療情報の適切な管理</p> <p>電子カルテに係る運用規程の遵守など患者の診療情報を厳格に管理するとともに、関係法令・指針に基づき、患者・家族に対する診療情報の開示を速やかに実施する。</p>	<p>⑥診療情報の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテに係る運用規程の遵守など患者の診療情報を厳格に管理するとともに、関係法令・指針に基づき、患者・家族に対する診療情報の開示を速やかに実施する。また、文書管理システムを活用し、診療に関する資料の効率的な管理を行う。 医師、看護師、薬剤師など職員誰もが、より簡易で安定的に診療情報を記録、管理できる環境を整備するため、中央病院では医療情報システム(電子カルテシステム等)の更新を確実に実施する。 	<p>(23)診療情報の適切な管理</p> <table border="1" data-bbox="1507 1045 2792 1136"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 紙カルテは、電気錠により入室が制限されているカルテ庫において適切に保管した。紙カルテのうち入院カルテについては、カルテ庫内の施錠できる部屋に保管しているが、外来カルテについても、施錠できるパーテーションを設置し、より厳重に管理した。また、紙カルテ貸し出しの際は、診療情報管理担当が所在管理を行うとともに、電子カルテについては、診療記録管理要綱に基づき適切に運用した。 カルテの記載方法について、中央病院では診療記録委員会、北病院では医療情報システム管理委員会が中心となって適切な記載方法を院内に周知した。また、カルテ開示については、運用規程等に基づき、適切に実施した。 <table border="1" data-bbox="1537 1381 2407 1503"> <caption>カルテ開示件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>67</td> <td>45</td> <td>66</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>61</td> <td>(6.2%減)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>(111.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年7月に、診療記録の整備を促進し医療の質向上を図るため、診療記録委員会の中に診療記録監査部会を設置した。令和2年度は、無作為に抽出した36例について、カルテの記載内容について監査を実施した。 文書管理システムを平成28年6月に導入し、紹介状等の紙文書を電子化することにより、電子カルテで文書の確認ができるようになるなど、医療情報の効率的な管理、利用が可能となるとともに、大部分の紙文書をペーパーレス化したため、紙文書の運搬、保管等の業務の大幅な効率化を図ることができた。 中央病院の医療情報システム(電子カルテシステム)については、令和2年12月の更新を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、令和3年5月に更新を完了した。 退院サマリーの作成状況は、前年度から0.5P増の98.6%であった。 <table border="1" data-bbox="1555 1850 2496 1940"> <caption>退院サマリー作成状況(退院後14日以内の作成率)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>93.1%</td> <td>93.9%</td> <td>92.4%</td> <td>93.8%</td> <td>98.1%</td> <td>98.6%</td> <td>(0.5P増)</td> </tr> </tbody> </table>	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	67	45	66	67	65	61	(6.2%減)	北病院	10	10	8	9	9	19	(111.1%増)		H27	H28	H29	H30	R1	R2		中央病院	93.1%	93.9%	92.4%	93.8%	98.1%	98.6%	(0.5P増)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																											
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																							
中央病院	67	45	66	67	65	61	(6.2%減)																																						
北病院	10	10	8	9	9	19	(111.1%増)																																						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2																																							
中央病院	93.1%	93.9%	92.4%	93.8%	98.1%	98.6%	(0.5P増)																																						